



NUMAZU NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

沼津高専だより

第104号

平成26年3月14日発行
独立行政法人国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校
〒410-8501 沼津市大岡3600

TEL 055-921-2700 URL <http://www.numazu-ct.ac.jp/>



題字：柳下福蔵 学校長

目次

☆沼津工業高等専門学校**の目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針**

☆**校長・副校長・校長補佐から（平成25年度総評）**

動き出した沼津高専の教育改革…………… 学校長 柳下 福藏 …… 4

グローバル時代の高専教育…………… 副校長（教務主事） 蓮 實文彦 …… 4

—教務からみた平成25年度総評—

平成25年度を振り返って…………… 校長補佐（学生主事） 大久保清美 …… 5

平成25年度を振り返って…………… 校長補佐（寮務主事） 遠藤良樹 …… 6

平成25年度の総評…………… 校長補佐（専攻科長） 遠山和之 …… 6

混合学級と学際教育の導入：平成25年度総評+α
…………… 校長補佐（学際教育担当） 押川達夫 …… 7

☆**各学科から（平成25年度総評）**

この1年を振り返って…………… 機械工学科長 小林隆志 …… 8

平成25年度を振り返って…………… 電気電子工学科長 佐藤憲史 …… 8

平成25年度末にあたって…………… 電子制御工学科長 川上 誠 …… 9

制御情報工学科平成25年度を振り返って…………… 制御情報工学科長 長谷賢治 …… 9

物質工学科の平成25年度を振り返って…………… 物質工学科長 芳野恭士 …… 10

平成25年度を終えるにあたり…………… 教養科長 西垣 誠一 …… 11

☆**国際交流室から**

国際性涵養のための海外研修プログラム…………… 国際交流室長 鈴木久博 …… 11

☆**部活動**

第48回「全国高等専門学校体育大会」成績一覧…………… 12

第51回「東海地区国立高等専門学校体育大会」成績一覧…………… 12

全国大会出場報告…………… 13

全国高専体育大会テニス競技に参加して…………… テニス部 高橋望史 …… 13

5度目の全国高専大会へ出場して…………… バドミントン部 米山沙弥 …… 13

一年越しのリベンジ…………… サッカー部 瀧澤健太 …… 14

卓球と私…………… 卓球部 村松歩香 …… 14

☆**行事・コンテスト・その他イベント**

●**体育祭**

愛される行事を目指して…………… 体育祭実行委員長 鈴木 陽 …… 15

●**高専祭**

「進撃」…………… 高専祭実行委員長 中戸川慎之介 …… 16

●**3年スキー合宿研修**

“鉄は熱いうちに打て！”の意味を実感した2日間
…………… 3学年合宿研修担当 後藤孝信 …… 16

●**ロボットコンテスト2013**

信じて努力し続けること…………… ロボコン部顧問教員 青木悠祐 …… 17

～ロボコン部の挑戦～

「努力」を「結果」に…………… ロボコン部 福井慧賀 …… 18

●**その他イベント**

○**東海北陸地区高専英語スピーチコンテスト**

刺激を受けたスピーチコンテスト…………… 制御情報工学科3年 後藤麻希 …… 18

英語スピーチを経て…………… 1年5組 小林太郎 …… 19

○**第8回読書感想文コンクール**

読書感想文コンクールに寄せて…………… 国語担当 中園孝信 …… 19

『生涯最高の失敗』を読んで…………… 1年4組 坂部靖奈 …… 20

『歌え！多摩川高校合唱部』を読んで…………… 1年5組 佐野華鈴 …… 21

○**第7回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト**

プレコン参加のご報告…………… 英語担当 藤井数馬 …… 21

☆**退職教職員から**

Numazu C.Tのユニフォーム…………… 教養科 中園孝信 …… 22

「7つの峰での3年間」…………… 教養科 福木洋一 …… 23

沼津高専職員としての思い出…………… 総務課長補佐（会計担当） 影島義三 …… 23

☆**卒業生・修了生から**

高専での五年間…………… 制御情報工学科5年 北風玲太 …… 24

後悔先に立たず…………… 物質工学科5年 坂本良太 …… 24

三年間の研究室生活を振り返って…………… 制御・情報システム工学専攻2年 飯谷健太 …… 25

専攻科での経験…………… 応用物質工学専攻2年 見原翔子 …… 25

☆**私の高専時代**

他のリーダーの目に恐さを感じたか…………… 物質工学科20期生 小林美学 …… 26

☆**学生の研究活動（2013.3.20～2014.3.31）**…………… 26

☆**平成25年度卒業生・修了生進路先一覧**…………… 31

☆**教育後援会から**

卒業に際して…………… 教育後援会会長 鈴木政孝 …… 33

☆**同窓会から**

卒業して42年、今思うこと…………… 同窓会会長 木戸 実 …… 33

☆**事務部から**

平成26年度前期分授業料の免除および徴収猶予について…………… 34

沼津高専意見箱について…………… 34

平成26年度（平成26年4月～平成27年3月）行事予定表…………… 35

沼津工業高等専門学校 の 目的、教育目標、 養成すべき人材像、学生受入方針

教育理念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

目 的

本高専は、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与することを目的とする。

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

学生受入方針

- 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
- 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

本 科

教育方針

1. 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2. コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3. 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4. 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

1. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2. 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
3. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力

5. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

専 攻 科

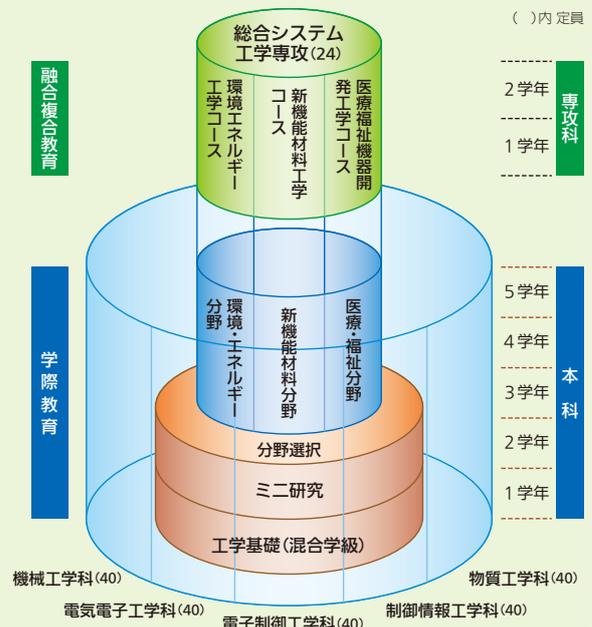
教育方針

融合複合領域の学際分野においてイノベーションを創出できる実践的・創造的エンジニアを育成するために、融合複合領域の専攻科実験、長期インターンシップによるエンジニアリングデザイン教育の実質化及び専攻科研究のマンツーマン指導などの教育方針のもとに以下の学習・教育目標を達成する。

学習・教育目標

- ①社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的思考力
- ②数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
- ③工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
- ④コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
- ⑤産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢

本科の学際教育を深化する専攻科3コース



校長・副校長・校長補佐から（平成25年度総評）



動き出した沼津高専の 教育改革

学校長
柳下 福藏

本校は、創立50周年を機に、環境・エネルギー、医療・福祉分野を重視する社会経済環境の変化に対応するために学際領域を包含した新教育課程の適用を開始し、2年目が終わろうとしています。1学年を混合学級として全ての1年生が専門5学科の基礎的実験・実習を体験する工学基礎を修得し、2年生は2～3名の学生が全教員にミニ研究の個別指導を受け9月に2回目の公開発表会を実施しました。1年生の工学基礎、2年生のミニ研究のいずれもが受講生から好評を得ています。3・4・5学年には所属する専門学科の基幹科目と同時に環境・エネルギー、医療・福祉、新機能材料の学際3分野から1分野を選択して学修し、広い視野を備えた創造的・実践的技術者としてイノベーション創出に貢献できる人材の育成を目指します。

専攻科は、本科の学際教育を深化する「総合システム工学専攻（環境エネルギー工学コース、新機能材料工学コース、医療福祉機器開発工学コース）」の1専攻3コースへの改編について大学評価・学位授与機構の審査が終

了し、平成26年度から認定専攻科として新たにスタートします。本科の学際教育から専攻科まで連続した7年一貫の教育改革が国立高専機構、文部科学省及び大学評価・学位授与機構から高い評価を得て、昨年度の補正予算では6億数千万円が学際3分野の大型設備の購入として認可されました。これらの大型設備は改修中の教育研究支援センターを中心に順次設置が進められます。特に、医療・福祉分野の大型設備は県のファルマバレープロジェクトに同調して本校の学生教育のみならず医療・福祉分野に進出を目指す地域企業の支援としての活用も考慮する予定です。

さらに、地域共同テクノセンターを中心に近隣企業との共同研究、受託研究が卒業研究、専攻科研究の学生参加のもとに教育の一環として積極的に進められていることはもとより、静岡県ファルマバレープロジェクトの人材育成を担う「富士山麓医用機器開発人材育成プログラム（(独)科学技術振興機構の地域再生人材創出拠点の形成事業）」は同機構の5年間の補助期間が終了し、平成26年度からは静岡県の支援を受けて「沼津高専特別課程」として社会人の医療・福祉分野参入への人材養成を継続することになりました。

結びに当たり、産業界に就職する諸君、高専専攻科・大学・大学院に進学する諸君に井上靖氏の言葉「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る」を贈り、常に希望を語れる人生を歩まれることを祈念します。



グローバル時代の高専教育 —教務からみた平成25年度総評—

副校長（教務主事）
蓮 實 文 彦

毎夏、高専機構主催による教育全般に関する研究会「全国高専教育フォーラム」が開催されます。本年度も豊橋技大を会場に8月21日から3日間開催され250件余りの研究発表が行われました。今年の主題は「グローバル時代の高専」でした。このタイトルが示すように、今年度、高専機構が強く打ち出した教育の方針は「世界で活躍できる技術者の育成」でした。本校においても、数年前より英語科の教員を中心に英語教育の充実を目指して来ました。低学年を中心とした英語多読の導入、1年生から4年生までの全員を対象にしたTOEIC試験の実施。5年生、専攻科生を対象としたカナダ人講師による専門授業（5日間の集中講義）の導入。スピーチコンテスト、プレゼンテーションコンテストへの積極参加（指導）などが挙げられます。50周年記念基金を原資とした海外語学研

修、海外インターンシップ、海外研究発表などへの助成金制度も今年度より始まった新たな国際化支援制度です。これらに加え、本年度より専門教員による英語での授業展開を視野に、教員向けの研修が開始されたことも今年度の大きな変化でした。

「世界で活躍できる技術者教育」は、単に英語教育だけではなく、次世代の技術の先端を開く技術者育成も大切な要件と考えます。この点に関しては、本校で進めてきた教育改革「混合学級と学際教育の導入」と本科の学際科目を深化させた「専攻科改編」は正にこのためです。12月、3年毎に行われる高専機構による監査が行われました。この監査、会計は勿論のこと管理・運営のすべての分野に及ぶもので3日間厳正に行われました。その講評の中で、主監事より、本校の学際教育を中心とした教育課程の改革に対する取り組みに対し高い評価を頂きました。その専攻科の改編については9月、学位授与機構に「専攻科認定申請書」を提出し、審査の結果承認されましたので、4月開講となりました。

さて、教務担当としてご報告しなければならない重要な問題が、留年・退学者です。その数は、年度を終えなければ確定することはできませんが、現時点ではいずれ

の数も減っています。水口先生による低学年を中心とした放課後開講の数学補修授業、物理の勝山教授を中心とした何でも科目相談室、大庭准教授を中心としたメンタルヘルス側からの学習支援、専攻科生による勉強部屋の開催。本年度もこれらの学習支援プログラムを開設して

まいりました。加えて後期より、数学科の教員団がこの動きに加わりました。学生諸君の進級と卒業を祈って稿を終えます。本年度頂きましたご支援とご協力に深く御礼申し上げます。



平成25年度を振り返って

校長補佐（学生主事）
大久保 清 美

年度当初に私は、学生主事の最重要掌理事項は、学生の事故、メンタル・ヘルス、及び非遵行為に対する「リスク・マネジメント」であると書きました。

ほぼ1年経ってこれを点検評価してみると、登下校時の交通事故に関しては、原付事故が3件、自転車事故が5件と、前年度に比べると原付事故は半分以下になりましたが、自転車事故は横ばいです。折しも12月から道路交通法が一部改正され、特に自転車に関するルールが厳しくなりました。本校でも、原付は言うまでもありませんが、自転車についても交通安全教育を徹底して行きます。課外活動中の事故に関しては、大きなけが等はありませんでした。クラブ顧問教員・コーチ各位のご指導の賜物と感謝しています。

メンタル・ヘルスについては、カウンセリングを受けた学生は前年度よりさらに減り、漸減傾向にあります。しかし、6月に実施した「こころと体の健康調査」では、注意を要するレベルの学生が相当数おり、学生生活支援室や担任と協働し、引き続き注意深い観察やケアを続けているところです。

非遵行為に関しては、残念ながら教室での現金盗難が3件ありました。この他に校内での財布の紛失が2件ありました。いずれも未解決です。ただ、盗られたり失くしたりした学生にも、財布を鞆に入れたまま放置するなど過失はあります。まずは自己管理をしっかりしてください。自転車盗難は激減しました。1月現在でまだ1件も被害届が出ていません。今年度から二重ロックを自転車通学許可条件に加えたことが大きく影響しているものと思われま。ただ実際は、二つ目の錠を所持してはいるものの、施錠していない学生が散見されます。今後も二重ロックが習慣となるよう、粘り強く指導を続けて行きます。

クラブ活動については、全国高専体育大会において、テニス部が男子団体で3位入賞、バドミントン部のC5米山沙弥さんが女子個人で3位入賞を果たすなど、大活躍をしました。米山さんは東海地区高専体育大会個人の部5連覇ということで、静岡県バドミントン協会等からも特別表彰を受けました。また東海北陸地区高専ロボコ

ン大会で、本校Bチームが久々にベスト4進出を果たし、デザイン賞を獲得しました。今後のさらなる活躍が期待されます。

学校周辺クリーン活動は今年度も、担任・副担任のご協力の下、全クラスが実施しました。1年生オリエンテーション研修は3年ぶりに御殿場の国立中央青少年交流の家で行い、やっと東日本大震災前の状態に戻りました。3年生スキー研修は今年度から宿泊所を変え、1泊2日でコンパクトに行いました。

今年度は学生キャリア支援室長も併任しましたが、キャリア教育自立化元年として新たに「沼津高専キャリア教育支援プログラム」を構築し、1・2年生で「Futureしずおか」、3年生で「かたり場」、5年生で「社会人準備講座」などの新たなプログラムを導入し、4年生・専攻科1年生向けには、前年度から始めた「就職祭」をさらにバージョンアップして行いました。どのプログラムも学生には大変好評で、大変うれしく思っています。今年度、こうして新しいキャリア教育に一定の道筋をつけたということで、来年度からは担当を長縄先生と中園先生にバトンタッチします。両先生を中心に、キャリア教育のさらなる充実を期待しています。



国際交流関係については、国際交流室長の鈴木久博先生のご報告をご覧ください。環境保全委員長としては、今年度9月から、教職員の業務負担軽減策の一環として、ごみ集積場でのごみ当番の人数を半減させました。しかしその分、教室等でのごみ分別を担当等に従前以上にしっかりと教育して頂かねばなりません。よろしくご協力致します。

最後になりましたが、この2年間、主事補を務めてくださった小林美学先生（学生会顧問）、野毛先生（高専祭顧問）、稲津先生（交通・クリーン活動等担当）が今年度限りで学生委員会を離れられます。どの先生も、他にも重責を担い大変お忙しい中、献身的に学生委員会の屋台

骨を支えてくださいました。ここに記して、心より御礼申し上げます。なお私事で恐縮ですが、あと1期2年、

学生主事を続けることになりました。なにかと至りませんが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



平成25年度を振り返って

校長補佐（寮務主事）
遠藤 良樹

日ごろ寮運営にご協力、ご理解頂きありがとうございます。今年度もすばらしい寮生会の協力のもと期待通りの活躍をみせてくれました。

さて今年度の活動を簡単に振り返ってみます。

- 4月：27日親睦会を実施。
- 5月：2日防災訓練を実施。また寮祭を12日に開催しました。問題なく盛大に開催することができました。
- 6月：長泉北中学習支援を開始。後期からは休日学習支援も実施しました。
- 7月：13日夏祭りを実施。打ち上げ花火はさらに盛大になりました。また10日～12日に富山高専（射水）指導寮生3名を受け入れ。
- 9月：13日～15日に夏季寮生リーダー研修を実施。吹き出しは天候不順のため実施できませんでした。自殺予防に関する講習を行いました。
- 10月：釧路高専との交換寮生を9日～13日に実施。同時に一関高専から寮生2名を受け入れ。3高専間の交流が実現しました。またこの月に行われた来年度寮長、副寮長選挙により来年度寮生会3役が以下のように決まりま

したのでお知らせ致します。

寮長 石川和磨君（E3 現副寮長）
副寮長 長谷部かれんさん（M3 現庶務長）
小林和紀君（C3 現清峰寮棟長）

3人とも今年度本部役員です。

11月：12日避難訓練を実施。また13日～15日に本校指導寮生3名を昨年度に引き続き富山高専（射水）に派遣。さらに15日～16日に佐世保高専指導寮生3名を受け入れ。今年度は他高専との交流を多くもてたと思います。

以上が今年度の主な活動です。（1月現在）

教職員の異動です。3年間本校寮監として学生指導、寮運営に情熱を注いで下さいました福木洋一先生がこの3月で定年退職されます。先生は前任の稲取高校校長を定年退職後平成23年4月に本校学生寮寮監に着任。それまで培われました公立高校での生徒指導のご経験を活かされ学生寮の運営、発展に貢献されました。3年間ごいっしょさせていただき大変感謝しております。

職員では2年間寮運営を支えて下さった学生課の岡本ちづ子寮務係長がこの3月をもって定年退職いたします。直近では2年間ですが、その前も寮務係長を務められ永年にわたりおもに学生課職員として本校に貢献されました。

終わりに、1年間学寮を支えて下さった寮務関係教員、寮務係職員、学生課職員、保護者の皆様、そして寮生会、全寮生に感謝致します。ありがとうございました。



平成25年度の総評

校長補佐（専攻科長）
遠山 和之

専攻科生の保護者の皆様には、日ごろより専攻科の教育活動にご理解ご協力を頂き、ありがとうございます。平成25年1月現在で1年生22名、2年生23名の計45名が在籍しています。

本年度も「国際性豊かな技術者の育成」という産業界からの要請に応えるべく、海外インターンシップ、国際会議への参加等を積極的に進めました。昨年3月に専攻科2年の諏訪佑介さんと馬飼野祐貴さんが、それぞれマレーシア（東洋エンジニアリング）とインドネシア（小松製作所）に派遣され、5月に海外インターンシップ報告会を開催しました。本年3月も専攻科1年の富岡悠二さん（フィリピン・ツネイシホールディング）と西村和真さん（マレーシア・東洋エンジニアリング）が派遣さ

れる予定です。富山高専主催の北アイルランド海外インターンシップには専攻科1年の鈴木卓磨さんと花城拓史さんが参加し、富山高専、鈴鹿高専、石川高専の専攻科生とともに8月18日～9月17日の間、北アイルランドのSERC（South Eastern Regional College）で研修しました。国際会議には、専攻科2年の渡邊優太郎さんが、イタリアで開催されたIEEE主催の固体誘電体に関する国際会議（ICSD2013）に参加し、早稲田大、九工大、豊橋技科大、東京都市大と共同で進めたナノコンポジット材料の研究成果を報告しています。今年設立した沼津高専国際交流基金の制度もありますので、海外インターンシップや国際会議への参加を是非ご検討ください。

本年度3月期修了予定23名全員の進路が決定しています。就職内定者は15名（小松製作所、ツムラ、JR東日本、NOK、日本食品化工、御殿場市役所、三協、富士鋼業、東京ウエルズ、横浜ゴム、TOTO、富士電機、アウトソーシングテクノロジー、三明機工、トヨタ自動車東日本）、大学院への進学者は8名（東京医科歯科、北陸先端科技大、東工大3名、名古屋大2名、筑波大）です。就職希望学生向けに12月に就職祭（参加企業数35社）を、大学

院進学希望学生向けに11月に大学院説明会（東工大、名古屋大、筑波大、奈良先端科技大、北陸先端科技大他）を開催しました。

いよいよ来年度から従来の専門分野を超えたイノベー

ティブな創造的実践的技術者の育成を目指す『新しい専攻科』がスタートします。

今後とも沼津高専専攻科をよろしく願っています。



混合学級と学際教育の導入： 平成25年度総評+α

校長補佐（学際教育担当）
押川 達夫

平成24年度入学生より導入した「混合学級と学際教育の導入」は、今年度で2年目に入りました。学際教育導入の目的を今一度示すと、「現行の専門教育を基盤としながらも他の専門知識を幅広く学習することにより、実社会に役立つ技術者としての人材を輩出する」ことにあります。このような背景から、平成24年度からの学際教育カリキュラム対応の新入生は、①混合学級により同級生間の広い人間関係の形成、②専門性に関わりなく工学に共通の基礎知識を学習する「工学基礎Ⅰ」、③専門性に関わりなくモノ作りに必要な知識と実験を学習する「工学基礎Ⅱ（共通実験）」、④現2年生には創造性を育むために全教員が指導教員となる「ミニ研究」を実施したところです。昨年9月に開催したミニ研究発表会では昨年度よりも多数の保護者が来校されたこと、および全体としてミニ研究内容が刷新された傾向があったことは責任者として嬉しく思っております。今後のミニ研究から製品化される物が発現、あるいは地域社会に役に立つ事項が出現する可能性を秘めているテーマがあることに本校の先生方の力量はスゴイぜ！と受け止めています。平成26年度の3年生より学際教育科目としての専門科目（必修単位、前期・後期各1単位）が開始されます。学際教育分野として「環境・エネルギー分野」、「新機能材料分野」、「医療・福祉分野」の3分野が設定されています。各分野の授業は学生自身が将来にとって身につけたい知識分野を選択します（学年途中での分野変更は認められません）。昨年12月に各分野選択方法について学生への説明会を開

催し、eラーニングシステムを用いて学生各人が分野を選択しました。また、学際科目の授業担当教員も決定し、いよいよ4月より学際教育科目の授業がスタートする段階になってきました。

4月より「学際教育担当」の業務は教務委員会に移譲することになりました。沼津高専におけるこれら一連の教育カリキュラム改革は、更に発展し専攻科改編まで繋がったことは極めて感無量です。さらに学際教育実験棟が概算要求項目に含まれたことは嬉しく思い、是非実現してほしいと願っています。この間、柳下校長のリーダーシップのもと全教職員のご協力とご理解を得たからこそ現在に至っております。改めて教職員の皆様に深い感謝の意を表明します。将来は学科を越えた卒業研究や専攻科学研究を希望する学生が現れることを個人的に期待しています。

学生に対して伝えておきたい点の一つがあります。それは学際教育の目的から言えば、自分の専門以外の専門性を身につけることであり、幅広い物の見方を養成することでもあります。このことを強く意識すれば、君達が将来イノベーション創出の担い手になることは間違いないはずで、そして日本という狭い国土に縛られることなく、大いに世界で活躍できるベンチャー企業を立ち上げてください。私の願いと言ってもいいかもしれません。なぜなら身近で言えばMicrosoftやAppleのソフトウェア会社、自動車会社で言えばHONDAなど、もとは個人のベンチャー企業が世界企業へと発展してきました。このような事例は多数あります。深い専門性と幅広い専門性を身につける！という気構えの前提条件に幅広い人間性も身につけなければならないでしょう。なぜなら自分一人だけで仕事はできないからです。まずは自分自身内部に秘めた野心を持ってはどうでしょうか？学生時代はその野心の爪を研ぐ時だと思います。



各学科から (平成25年度総評)



この1年を振り返って

機械工学科長
小林 隆志

日本経済は長いデフレ期を脱し、産業界にも明るさが見えつつあります。2020年の東京オリンピック開催決定、2027年のリニア新幹線の開業に向けてのルート発表なども明るいニュースでした。

近年の科学技術の急速な進歩には目を見張るものがあります。自動運転車が走り、無人の小型ヘリコプターがピザを配達するのが現実となるのもそう遠い将来ではなさそうです。平和的な利用ばかりではなく、軍事ロボットの開発も急速に進展しています。無人ロボットが敵か味方かを判断して、攻撃を加えるということも現実のものとなっているようです。文化講演会で国立情報学研究所の佐藤一郎教授が「ビッグデータ」について講演されました。最近のIT技術を使えば人々が使っているインターネットの情報から、その人が「何を欲しがっているか」まで推定できるようになっているとのこと。人間がコンピューターに支配される時代が来るのではないかと空恐ろしさすら感じます。科学技術は「諸刃の剣」であり、素晴らしい科学技術もどう使うかは人間次第です。人類の平和的発展のために科学技術をどう利用すべきかを考えることが大切です。

今年度の機械工学科の卒業生・修了生の進路状況は、本科5年生が就職22名、進学11名、専攻科生が就職3名です。この春めでたく卒業式・修了式を迎えた皆さんは、



急速に変化する世界の中で将来の日本の産業界を支える人材として活躍されることを心から祈っています。

毎年、産業界で活躍する卒業生を招いて4年生を対象に「就職懇談会」を行っています。今年も4名の先輩が、現在の仕事や後輩へのアドバイスを熱く語ってくれました。印象的であったのは、学生からの「高専卒と大卒とでは待遇が異なるのでは」という質問に対し、「給与面での差はあるにせよ、高専卒業生は、大学卒業生、大学院修了者と同じ仕事をさせてもらえてありがたい」、「将来のことは自分の努力次第」と、前向きに考えていることでした。自分が全力を注げる仕事と出会うことが大切であると教えられました。在学生の皆さんも是非将来そのような仕事に巡り合っていただきたいと思います。

5年間務めて参りました機械工学科長をこの3月で交代します。在任中の保護者の皆様のご支援とご協力に心より感謝いたします。今後とも機械工学科教員一同協力して技術者の育成に取り組んでまいります。変わらぬご支援を心よりお願いいたします。



平成25年度を振り返って

電気電子工学科長
佐藤 憲史

日頃より、電気電子工学科の教育・研究にご理解とご支援を賜り、感謝申し上げます。今年度は、「学際教育の導入」を柱とした改編への準備が進められ、昨年度から実施している1年生の混合学級や2年生のミニ研究が軌道に乗り出しました。学科の枠にとらわれない、世界の産業構造の変化に対応した教育が求められていると言えます。一方で、電気電子工学科としての特徴を明確にすることも重要であり、エネルギー・エレクトロニクスからエコロジーまで広範囲な分野に目を向け、広く産業界

で活躍できる人材育成を目指しています。

今年度の電気電子工学科の進路状況について、簡単に記させていただきます。本科5年生は海外研修で休学中の1名を除いて40名おりますが、就職希望者が25名、進学希望者が15名でした。就職については、求人票を受け取った企業数は487社に上り、109社からご訪問いただきました。これは昨年より増加しており、企業の採用状況が好転していることがうかがえます。このような中、就職希望者全員が内定をいただきました。就職予定の企業は、電力などの強電関係、製薬、食品関係など、広範囲にわたっています。進学では、進学希望の学生15名全員が進学先を決めています。進学先は、東北大や大阪大、九州大などの有名大学はじめ、全国の大学と沼津高専・専攻科です。いくつかの選ばれた大学が研究大学として新たに位置づけられるなど、大学も改編されようとしています。進路については、学生の希望を第一に考え、そ

れがかなうように指導しています。

昨年12月には前年度に続き、主に4年生を対象にした「就職祭」が本校の体育館で開催され、企業の就職担当の方と直接話す機会を得ました。企業や社会に目を開き、進路について学生が自分の考えを持つことが重要であり、そのためのキャリア教育を今後も継続して推進していきます。

以上、簡単に今年度の活動を報告しました。沼津高専と当学科が中学生にとって魅力ある進路先になっている

か、学科長として常に気にかかるところです。そのような視点から、この1年間、当学科の広報・宣伝活動に努めてまいりました。学科説明会でもお願いしましたが、周囲の方々に高専の特徴や進路状況などお話しただければ幸いです。我々も、いろいろな活動を通して高専の魅力を発信していきます。電気電子工学科の教育・研究の充実と発展を目指して、教員一同全力で取り組んでいきますので、保護者の皆様の変わらぬご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



平成25年度末にあたって

電子制御工学科長
川上 誠

平成25年度の電子制御工学科長を務めさせていただきました川上です。なんとか年度末を迎えることができ、保護者の皆様には深く感謝いたしております。

さて、当学科の今年度卒業予定者は42名で、そのうち就職する者が21名、沼津高専専攻科への進学が11名、大学編入学が9名、進学希望1名となりました。当学科の教員が指導しています専攻科2年生につきまちは、大学院進学が6名（東京工業大学大学院2名、名古屋大学大学院1名、筑波大学大学院2名、東京医科歯科大学大学院1名）、就職が2名です。

本科生の就職に関しては、399社（去年は332社）から求人があり、求人企業数は増加しましたが採用する人材のレベルは依然として高い状況です。しかし、高専の卒業生に対しては企業から強い期待が寄せられていることはありがたい限りです。

進学組に関しては、第1志望の大学に編入学の決まった学生は4名です。編入試験後はそれぞれの進路に向けて卒業研究に打ち込んでいる姿が見られます。また、専

攻科へ進学する学生は11名ですが、内7名が推薦で合格しました。次年度も合格基準を満たせば、専攻科入学希望者をできるだけ多く受け入れる予定です。

昨年11月13日に開催しました学科説明会には、120組135名の保護者の皆様に出席していただきました。当日の資料は本学科の「第24回保護者説明会資料」としてまとめ、欠席された保護者の皆様には郵送いたしました。アンケートでは、学科説明会の内容についてはほぼ分かったとの回答をいただきました。また、授業や生活指導に関しては貴重なご意見を多数いただきました。今後の学科運営に生かすよう努力したいと存じます。

学生の活動では、11月に開催されたA&Sフェア2013では専攻科・本科ともに非常に多くの発表があり、12月のテクノフォーラムでも丁寧に説明をする姿を見ることができました。そのほか、様々な学会等で積極的に研究発表を行っています。

学科スタッフに関しては、舟田特任教授の再雇用期間が終わりを迎えます。長期間に渡り、学科運営にご尽力されました。また、私も今年度で学科長を退きます。短い間でしたが、皆様のご支援・ご協力に感謝いたします。

以上、簡単ですが今年度の報告をいたしました。来年度も電子制御工学科教員一同、学生の資質向上に邁進していくつもりです。今後とも保護者の皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。



制御情報工学科 平成25年度を振り返って

制御情報工学科長
長谷賢治

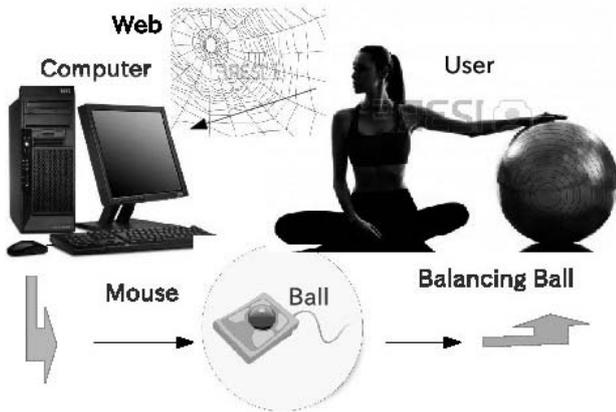
春陽の候、皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素から制御情報工学科の教育・研究に多大なご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。さて、この紙面をお借りして平成25年度の制御情報工学科を振り返って主なものをプロットしてみたいと思います。まずは、本学科5年生の進路状況から。アベノミクス効果で景気は上向き。そんな中での2014年卒の就職・進学戦

線だった。39名中13名が就職、26名が進学。就職状況は求人企業数は343社。求人倍率は約26倍。就職先は学校推薦の出光興産、サントリープロダクツ、日本たばこ産業、東芝機械など。また、自由応募ではSpeee、大都技研などの個性的企業。特徴は、自由応募への大幅シフト。企業名ではなく、その中身での企業選択。一方、進学先は大阪大学をはじめ筑波大、電通大などの国立大へ24名（あとの2名はセンター試験受験等で現時点で未定）。

今年度の特徴は、豊橋技科大の倍増（7名）。豊技大が研究大学（大学群のなかで旧帝大系など18大学しか認められていない）に認定。これが大きな要因。ともかく、真剣な大学選択をやっていることの証明です。

次に、われわれが投下した教育的アクションのアウトプットについて。今年度も第4年次の「創造設計」から

ユニークな作品群が生まれた。与えたミッションは「世の中にないスポーツ機器を開発せよ!」。その一例を紹介する。製品名は「バインバインマウス」(PLは池谷君)。現代人は「Webの世界」で多くの「時」を過ごす。この世界を動かすために必要なのは、簡単なマウス操作のみ。筋肉系はほとんど使わない。これでは、運動器症候群(locomotive syndrome)に落ち込む。だったら、マウスの内部にあるボールを外界に拡大して取り出し、そのボール(Balance Ball)を体全体で操作することでしかWebの世界をブラウジングできないとしたら。そんなコンセプトで生み出された作品。それが「バインバインマウス」。



作品のコンセプト (123RF.com画像一部使用)



物質工学科の 平成25年度を振り返って

物質工学科長
芳野 恭 士

今年度も、物質工学科の教育・研究にご理解・支援をいただき、保護者の皆様をはじめ、関係各位に感謝いたします。平成25年4月に、新入生として物質工学科1年生43名と専攻科応用物質工学専攻1年生4名に留学生1名、編入学生2名を加え、物質工学科2年生44名、3年生46名、4年生42名、5年生49名、専攻科応用物質工学専攻2年生5名の在所帯で今年度がスタートしました。今年度の1年生は、物質工学科の前身である工業化学科から通算してC科48期生に当たります。各学年とも定員よりも多めの学生数ですが、教職員が一丸となって教育に支障が生じないよう努力しております。1年生は混合学級で、物質工学科としての専門科目は週1科目と少なかつたかもしれませんが、2年生からは専門科目が増えますので進級の際には今一度気持ちを引き締めてほしいと思います。2年生は3年生に進級すると、新たに3つの分野の1つを選択しての学際科目が始まります。年間の行事としては、1年生は4月のオリエンテーション、2年生は観劇研修、3年生はスキー研修、4年生は関東

他にも面白い作品が誕生した。

あと、教員集団のポテンシャルを高めるアクションも(その仕組みの組織へのインストールは長縄教授(元OMRON))。

企業コンサルタントを招いて、ビジネス環境を取り巻くパラダイム転換、創造的思考の考え方、創造的思考を促すファシリテーション技術等の指導を受けた。専門的能力は高い教員集団。しかし弱点もある。その弱点を外部人的資源を活用して補強。そんな試みである。その他、(1)工場見学、(2)中学生向けへのS科PR活動、(3)保護者向けサービス(学科説明会2013等)等など、われわれはその時その時を全力投球で臨んでいる。

最後に、私事で恐縮ですが、5年間続けた学科長を今年度で外れることになった。この間、何とかやってこれたのも皆様方のお陰だと思う。この紙面を借りて感謝の意を表わしたい。変わって来年度からは新進気鋭の藤尾教授(現テクノセンター長)が第5代目学科長を務められる。組織の新陳代謝。さらなる進化を期待したい。また、制御情報工学科スタッフ一同、益々、研鑽を積み、学生の資質向上に邁進していく所存です。保護者の皆様には今後とも一層のご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

方面の工場見学と、それぞれの学年で研修が実施されました。彼らがこれからも高い意識を持って、一人前の技術者となる努力を続けて本科を卒業していくことを切に願っています。5年生については、進路をご報告させていただきます。5年生の就職希望者22名の内定、進学希望者25名の合格が決まり、2名は進路を保留しています。就職については、景気の回復の兆しは見られるものの、企業による採用の人選はむしろ厳しさを増している感があります。しかし、高専OBの方々の力量が高く評価されていることもあり、就職希望者全員が無事内定を勝ち取ることができました。一方、進学においても、大学における本校卒業生の評価は高いものがあります。また、進学希望者のうち11名は、来年度から1専攻3コースで新たに始まる本校の専攻科に進む予定です。先が読めない経済状況の中、高専卒業後の就職と進学については、今後とも十分に学生本人と保護者の皆様と相談しながら進路指導を行っていく所存です。5年生諸君に一言。皆さんは物質工学科教員一同が鍛え上げた沼津高専卒の技術者の卵として、自信を持って活躍してください。もちろん、今後も自分の力を過信することなく、技術者としての能力をより高める努力を継続することが大切です。また、本科から就職する人達には、海外で仕事をするようになる可能性があります。大学に進学する人達も当然同じことですが、グローバルな環境で仕事をする機会を是非自分のキャリアに積極的に活かしてほしいと思います。

本学科教職員も現状に慢心することなく、物質工学科のさらなる発展を築いていく所存です。今後とも、保護者

の皆様と連携をとりながら学生の成長を支えて参りたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。



平成25年度を終えるに あたり

教養科長
西垣 誠一

年年歳歳花相似たりて

歳歳年年人同じからず

唐の詩人劉廷芝の漢詩の一節ですが、何故か毎年この季節になると頭に浮かんできます。人生の無常を詠嘆した句であるという解釈とともに、若い人へ、「まだ若いと思ってもいつの間にか時は流れ、歳を取ってしまうものですよ。」という教を説いてもいます。本校の学生にも日々流されて生きていくのではなく、何かに打ち込んで充実した学生生活を送ってもらいたいと願うところです。

さて、漢詩に掛けるわけではありませんが、今年度で退職される教養科の先生方をご紹介します。定年退職される寮監の福木先生、数学の待田先生、国語の中園先生、そしてご家庭の事情で退職される英語の能登路先生です。

福木先生には3年間寮監を務めていただきました。本校は低学年全寮制を一つの教育の柱としておりますので、寮監の役割には大変大きいものがありますが、福木先生のご苦勞など詳しいことは寮務主事にお問い合わせすること

します。数学の待田先生は、昭和55年4月に着任されてから33年間本校の数学教育に尽くして来られました。学生の人気が高く、卒業生も含めて、待田先生に教わって良かったと思っている人は大勢いると思います。国語の中園先生は2年間、国語教育のみならずキャリア教育などいろいろな事に精力的に取り組み、高等学校で教鞭をとられた経験を本校のために活かしていただきました。英語の能登路先生は現在高専間人事交流で米子高専の方で勤務されております。予定では来年度4月から沼津高専に戻って来られることになっておりましたが、今年度一杯で退職されることになりました。能登路先生が本校で実質的に勤務されたのは4年半ほどでしたが、その間学生支援室長を務められるとともに、ベテラン英語教員としてまた女性教員として学生から信望を集めていらっしゃいました。以上4人の先生方のうち、福木先生と能登路先生は今年度で本校から離れられますが、待田先生は短時間再雇用制度を利用され、来年度も週2日ほど本校に勤務されます。また、中園先生はフルタイムの再雇用となりますので、来年度も見た目は今年度と同じように勤務されます。4人の先生方の今後のご健勝と更なるご活躍をお祈りしたいと思います。

最後に、南宋時代の思想家朱熹の漢詩の一節を挙げて終わります。

少年老い易く学成り難し

一寸の光陰軽んずべからず

国際交流室から



国際性涵養のための 海外研修プログラム

国際交流室長
鈴木 久博

社会のグローバル化に伴い、国際的に活躍できる技術者の養成が急務となっています。そのような社会の要請に応えるべく、この1年間、学生たちに様々な海外での研修に参加する機会を提供してまいりました。今年度は、昨年度の本専創立50周年を機に設立された国際交流基金からの一部費用助成の影響もあったのか、昨年度以上に多くの学生がそのようなプログラムに参加しました。

まず、8月には、富山高専主催によるサウスイースタン・リージョナルカレッジ（北アイルランド）での1か月のインターンシップに専攻科生2名が参加し、午前は語学研修、午後は工学の授業や実務訓練を体験しました。

現地の工場見学にも参加しました。また、熊本高専主催のシンガポールのポリテクニクでの2週間の英語キャンプには5年生1名が参加しました。さらに、(株)旭テックのタイ工場での短期グローバルインターンシップにも昨年に引き続いて4年生1名が参加しています。

また、高専機構と包括協定を結んでいるタイのキングモンクット工科大学ラカバン校から、過去2年間、数名の学生を本校に短期で受け入れてまいりましたが、来年度以降は本校からも同学へ学生を派遣し、国際感覚を身につけた技術者となる一助としたいと考えております。それに向けて、今年度は教員2名と5年生2名が同校へ視察にまいりました。同校のスタッフは本校からの学生の受け入れに非常に前向きな姿勢を示してくださり、遠からず本校からの学生派遣が実現すると確信いたしました。

この他、毎年本校独自に実施しているアメリカ合衆国シアトルでの夏期異文化体験&語学研修に、今年度は21名もの学生が参加し、2週間ホームステイをしながら語

学研修に励みました。今回は公共の交通機関を使って語学学校とホームステイ先を往復するという新たな試みがなされ、より現地の生活に密着した滞在が体験できたものと思います。

いずれのプログラムに参加した学生も、異文化に触れて日本人としてのアイデンティティを認識するとともに、考え方や視野を広めることができた様子です。また、英語でのコミュニケーション能力の必要性も強く実感して

帰国し、今後の学習に対するよい動機づけとなったものと思います。

海外に行くことは以前に比べればずっと容易なことになっているように感じますが、日本と違う風土、文化、民族のもとへ学生の皆さんを送り出すことは、保護者の皆さまのご理解とご協力がなければ実現しません。この場を借りてお礼申し上げます。

部 活 動

第48回全国高等専門学校体育大会

競技名	種目名	成績	クラス	氏名	備考
テニス	男子団体の部	3位	—	—	
	男子個人の部 シングルス	2回戦敗退	C 3	高橋 望史	
バドミントン	女子個人の部 シングルス	3位	C 5	米山 沙弥	
サッカー	団体	1回戦敗退	—	—	
卓球	男子個人の部 シングルス	予選敗退	C 2	桑原 康介	
	女子個人の部 ダブルス	3位決定 トーナメント敗退	C 2 E 2	村松 歩香 本多 由佳	

第51回東海地区国立高等専門学校体育大会

競技名	種目名	成績	クラス	氏名	備考
陸上	男子400m	3位	S 4	木山 順正	
	男子800m	3位	D 4	瀬戸 翔太	
テニス	男子団体の部	1位	—	—	全国大会出場
	男子個人の部 シングルス	1位	C 3	高橋 望史	全国大会出場
	男子個人の部 シングルス	2位	D 4	高橋 一将	
	男子個人の部 ダブルス	3位	D 4 C 3	高橋 一将 高橋 望史	
バドミントン	女子団体の部	2位	—	—	
	女子個人の部 ダブルス	3位	C 5 C 4	米山 沙弥 遠藤 みのり	
	女子個人の部 シングルス	1位	C 5	米山 沙弥	全国大会出場
ソフトテニス	女子個人の部	3位	C 5 M 5	稲葉 和恵 太田 真瑚	
空手道	個人戦 組手の部	3位	S 5	北風 玲太	
サッカー	団体	2位	—	—	全国大会出場
剣道	男子団体戦の部 (全国大会予選)	2位	—	—	
卓球	男子団体の部	2位	—	—	
	女子団体の部	2位	—	—	
	男子個人の部 シングルス	1位	C 2	桑原 康介	全国大会出場
	女子個人の部 シングルス	3位	C 2	村松 歩香	
	女子個人の部 ダブルス	1位	C 2 E 2	村松 歩香 本多 由佳	全国大会出場
水泳	女子総合	3位	—	—	
	女子50mバタフライ	3位	C 2	木下 真優	

競技名	種目名	成績	クラス	氏名	備考
水泳	女子200mリレー	2位	C4 C5 1-1 C2	渡辺 彩夏 前田 英里奈 今野 瑤心 木下 真優	
バスケットボール	男子	2位	—	—	

全国大会出場報告

全国高専体育大会テニス競技に参加して

テニス部 物質工学科3年
高橋 望 史

本年度、伊東市で開催された東海地区高専大会テニス競技において、男子団体は優勝、男子シングルスで私が優勝、男子ダブルスでは部長の高橋一将さんとペアを組み第3位の結果を残すことができました。この東海地区大会で優勝した男子団体と男子シングルスで全国大会への出場権を得ました。その結果は、男子団体は第3位、男子シングルスは2回戦敗退でした。

「高専のテニスはレベルが低い」と言われていますが、決してそのようなことはなく、全国高専大会には全国高校総体（インターハイ）で活躍する選手が2名、全日本学生テニス連盟の大会（インカレ）で活躍する選手も1名が出場していました。また、昨年度もインターハイ出

場経験がある選手が4、5名出場したと聞いています。私にとって初めての全国高専大会でしたが、この中で試合をすることは大変な緊張とともに、知らない人と試合をすることが楽しみでした。

男子シングルス1回戦では、一関高専の選手（同学年）と接戦の末、9-8で勝利することができました。2回戦は、昨年の全国高専体育大会で第3位、現在もインカレで活躍する徳山高専の選手でした。奮戦しましたが、力の差は歴然で1-8で敗退しました。団体戦では2回戦が初戦で鹿児島高専に2-1で勝利しました。続く準決勝では男子シングルス2回戦と同じく徳山高専と対戦し、0-2で敗退しました。徳山高専はその後、決勝でも勝利し優勝しました。

最後に、本大会出場に関して応援して下さったテニス部の仲間、先生方、学生係を始めとする職員のみなさん、そして一生懸命応援してくれた東海地区高専のテニス部の部員みなさんに感謝します。また、本大会出場に関してご援助いただきました教育後援会と同窓会に御礼申し上げます。

5度目の全国高専大会へ出場して

バドミントン部 物質工学科5年
米山 沙 弥

今年度も私は、東海高専バドミントン大会女子シングルスで優勝し、仙台市で行われた全国大会に出場しました。

今回の東海大会は、女子団体、ダブルス、シングルスすべての種目の5連覇がかかっていましたが、今まで頼りにしてきた先輩が昨年卒業したことで、4年間とは違う新たなメンバーでの挑戦となりました。団体、ダブルスは優勝することができませんでしたが、5連覇という目標に向けて、メンバー全員が一丸となり、強い気持ちで挑むことができ、よかったです。シングルスでは、引退がかかった試合でもあり、プレッシャーはありましたが、多くの人の期待に応えたい、絶対に優勝したいという思いで、自信を持ち、攻めの姿勢で挑みました。決勝で最後の1本を決め、5年連続の優勝を果たした瞬間は、安心感と応援してくれた方々への感謝の気持ちで

いっぱいでした。

そして私にとって最後の全国大会では、今回も3位という結果を得て、5年間で8回目の表彰台へあがることができました。最後の試合で表彰台にあがることができ、大変嬉しく思います。試合に関しては、追い込まれると自分のプレーができなくなってしまう傾向のあった私が、自分らしく、最後までシャトルを追い続ける姿勢を持ち続けることができたことは、私自身の成長であったと感じます。

5年間の全国大会出場を通して、試合の勝ち負けだけでなく、他高専の仲間との触れ合いができたこと、そして、部活動で培った協調性や心の強さを就職活動において生かすことができたことは、5年間部活動に励んできてよかった点であると自信をもって言えるものであり、大変誇りに思います。

最後に、わたしは、5年間を通して多くの方々の存在に救われてきました。「東海大会5連覇」という夢は私だけの力だけでは掴むことができませんでした。この夢を現実にするために、感謝してもしきれないほどたくさんの方々に支えていただきました。5年間本当にありがとうございました。

一年越しのリベンジ

サッカー部 制御情報工学科5年
瀧澤 健太

今年、一年ぶりに全国大会へ出場することができました。私たちにとってこの「一年ぶり」という言葉は、苦い経験を思い出させる言葉です。

私たちが高専に入学しサッカー部に入部したとき各学年に先輩がいて、毎年全国大会に出場していました。私たちが3年生になって迎えた夏休みに、二つ上の先輩たちの全国大会が終わり、先輩たちは引退していきました。そのとき、私たちは最高学年になっていました。一つ上の先輩たちは高校生の大会が終わると共に全員引退してしまっていたのです。しかし、当時3年生の私たちには部員の先頭に立って部活を引っ張るという意識が薄く、出席率が低い時期が続きました。そんな中、4年生になり東海大会に出場しましたが、一回戦で岐阜に敗れ全国大会出場を逃しました。全国大会に出場できなかったのは、入部してからの4年間で初めてのことでした。

全国大会に出場するのが当然だと思っていた私たちは、落ち込み、心もばらばらになってしまいました。全員が部活でそろうことがなくなりました。しかし、サッカー

が好きという気持ちは変わりませんでした。監督・コーチの熱心な指導もあり、4年生の冬からまたまとまり始めました。部活に対する意識も変わり、少しずつ後輩を引っ張っていけるようになりました。低かった5年生の出席率が全学年で一番高くなり、それに伴ってほかの学年の出席率も高くなっていきました。部活にまた活気が出てきました。

最後の高専大会には良い雰囲気でも臨むことができたと思います。全員が東海大会優勝・全国大会出場という目標に向かって全力で戦いました。初戦は前回敗れた岐阜でしたが、3-0で勝つことができ、続く鳥羽戦は2-0で勝利しました。豊田との決勝戦は前日の疲れもあってか0-2で敗れましたが、全国大会への切符はなんとか手にしました。

全国大会は一回戦で石川に1-2で敗れてしまいました。しかし、私にとってその試合は、今までの試合で一番楽しく、1秒1秒が充実していました。

私たちがこのようなすばらしい経験をできたのは、周囲の支えがあったからだと思います。どんなときでも私たちのことを考え、熱く指導して下さった監督・コーチ。応援に来て勇気をくれたOBの方々。陰で私たちのことを支えて下さった先生・同窓会の皆様。本当にありがとうございました。

卓球と私

卓球部 物質工学科2年
村松 歩香

「卓球で高専全国大会に出場したいです。」と入学試験の面接で答えてから、2年が経っていました。平成25年の夏、8月の暑い日、私は、全国高専体育大会卓球競技の会場である岩手県一関市総合体育館にいました。念願だった全国大会の会場には、多くの選手が集まっています。20歳までの選手が集う高専大会は、高校生の大会とは違う緊張感が漂っていました。しかし、その中でペアの本多さんとはいつも通りのプレーをすることができ、順調に予選リーグを勝ち抜くことができました。迎えた決勝トーナメント。広島商船高専のペアは、厳しいコースを正確に狙ってきました。私たちはこの試合をものにする事ができず、ベスト8という結果に終わりました。

昨年度の東海地区大会では、私は初めての高専大会の雰囲気に飲まれ、思うようなプレーができず、悔しい思いをしていました。その分、今年度にかける思いは強く、東海大会のダブルスの部で優勝することができました。本多さんと息が合ったプレーができるようになっていたことも大きな進歩でした。

部活動の練習時間は1日約2時間。限られた時間での

練習は、シングルの練習が中心でした。そのため、ダブルスの練習時間は少なく、なかなかペアと息が合わない日々が続きました。ダブルスの技術を伸ばすためには、効率の良い練習が求められます。そこでOBや社会人の方々と練習に参加させていただき、ダブルスの技術を磨きました。私は高専に入学する前、卓球の練習にあまり力を注げないだろうと思っていました。しかし、卓球の知識と技能にも優れた顧問の稲津先生からはいつも貴重なアドバイスをいただきました。また、仲間たちだけでなく卒業生からも温かい応援をしていただきました。沼津高専卓球部が気持ちよく卓球に取り組める環境であることに感謝しています。

卓球を始めた小学4年生のときから今まで上手になりたいという思いで私は練習をしてきました。どれだけ多くの人たちと関わり、支えを受けてきたか分かりません。地域の卓球クラブの方々、両親、その他多くの人々が私を支えてくれました。今回の全国大会出場は、その方々のおかげです。

これからも出会いを大切に、自分自身の成長につなげていきたいと思っています。今回、シングルでは東海地区大会で第3位だったため、全国大会に出場できませんでした。来年度は、東海地区で団体・シングル・ダブルス全種目を制覇して、全国大会に再び出場したいです。応援よろしくお願いします。

行事・コンテスト・その他イベント

体 育 祭

愛される行事を目指して

体育祭実行委員長 機械工学科4年
鈴木 陽

教職員の皆様、部活動・学生会の皆様、並びに体育祭実行委員会の皆様、多大なるご支援をありがとうございました。今年度は昨年度と同じく、前期と後期で2回実施されました。後期は当初の予定と異なる内容となりましたが、昨年度の2回の経験と反省を活かし、前期・後期ともにより能率よく行動することができました。

前期は2013年5月15日に実施されました。昨年度の結果から、低学年がトーナメントを勝ち上がるのが困難であることを学びました。これを解決するため、対戦クラス同士の学年差が離れないように意識してトーナメントを作成しました。その結果、例年よりも低学年の活躍が多く見られました。強豪クラス同士が下位トーナメントで当たってしまう等の問題が残りますが、誰もが楽しめる行事にしたいと考えているため、満足のいく結果となりました。

後期は2013年10月22日に実施されました。後期は引き

継ぎを兼ねて、後輩の3年生らに運営を一任しました。夏季休業明けからの準備期間が短く、資料作成等の引き継ぎはうまくいきませんでした。当日の運営は彼らのこれまでの経験が活き、軽いフットワークで次々と仕事をこなしてくれました。後輩らの与えられた仕事を全うする責任感と、自ら仕事を探す積極性が光っていました。この経験を今後の学校行事やその他の諸活動に是非活かしていただきたいです。

委員長を務めた計4回の体育祭は、回数を重ねるごとに楽しく、余裕をもって運営できました。私自身が場数を踏んでこの仕事に慣れ、効率よくこなせるようになったのも事実です。しかし、何よりも周りの方々の支えがあったから、4回の学校行事を遂行することができたと思います。人と人とのつながりの大切さを発見したことが、実行委員長の経験で得た私自身の成長だと振り返ります。華やかな仕事ではありませんが、学校の、全学生の1日を担ったことを誇りに思います。

体育祭当日に至るまでに、昨年度よりも多くの学生や実行委員から意見や要望をいただきました。改善すべき点がまだまだ多く存在することを認知したとともに、多くの方が体育祭に期待を寄せていることを再認識しました。学年や学科の垣根を取り払って活動できる体育祭が今後も発展し、学生全員から愛される行事に成長して欲しいです。



高 専 祭

「進 撃」

高専祭実行委員長 機械工学科5年
中戸川 慎之介

平成25年度高専祭実行委員長を務めさせていただきました、機械工学科5年の中戸川慎之介です。このような多くの方の目に止まるものに参加させていただき非常に嬉しいです。私はもちろん、高専祭について書きたいと思います。

今年の高専祭テーマは「進撃」でした。昨年50周年を迎えた沼津高専ですが、51年目である今年は「51年目」としてではなく「新たな1年目」とするべくこのテーマに決定しました。何かとこの1年話題となったこの言葉に肖ったのは、2つの理由があります。1つ目に、「新たな1年目」として様々なことへの挑戦意欲向上、高専の新しい未来を築こうといった高専祭スタッフの決意から、2つ目は、その話題性から地域の方々により興味を持ってもらえるのではないかと考えたからです。

高専祭は規則がある中で自由に作り上げていくものです。活動をしている最中では厚かましく感じることもあった規則ですが、今、こうして振り返ると「決められた条



3年スキー合宿研修

「鉄は熱いうちに打て！」の意味を実感した2日間

3年学年代表 後藤 孝信

3年生200名と私たち引率教職員12名は、1月16日(木)から17日(金)の間、山梨県南都留郡鳴沢村にて合宿研修を実施しました。

朝8時15分に本校をバスで出発し、車窓から雪化粧した富士山を眺めながら移動して、10時頃に“ふじてんスノーリゾート”に到着しました。直ちにスキーの準備に



件の中で最大限の力で何かをやり遂げる」といった解釈ができるように感じ、非常に高専らしいように感じます。

私は1年生の時、上級生に誘われスタッフ活動に参加しました。その活動の中では1年生～5年生まですべての学年の学生が隔たりなく高専祭実現へ向けて準備を進める姿がありました。私は仕事をこなすだけでなく、その中にある楽しさに惹かれこの5年間スタッフ活動に参加してきました。

高専祭準備にあたるスタッフ活動は、学生が楽しみながらも真剣に活動し、協調性や向上心、責任感などを養える場であると私は考えます。今年は下級生のスタッフへの参加人数が少なかったためこういった経験ができた人はごく一部でしかありません。私は、もっと多くの学生にスタッフ活動に参加して、こういった経験をしてもらいたいと思っています。ほんの少しの経験ですが、それが社会人となった時に役立つ力の1つ、強みになるはずです。

高専祭は学生が作りますが、近隣の方々や学外の皆さんの協力あってこそその高専祭ですので、今年お越しいただいた保護者の皆様にも、高専祭に来てよかった、また来たいなど感じていただけていたら幸いです。来年度からもより一層、一般の方々にも楽しんでもらえるようなものを作っていけるように次期委員長達に引き継ぎたいと思っております。これからも沼津高専高専祭をよろしく申し上げます。

取り掛かり、昼食(カレーライス)の時間を除いて、15時半までスキー技術の修得に励みました。その後、“富士緑の休暇村”に移動し、スキー班長と宿泊室長との連絡会議を済ませて、夕食(すき焼き)を堪能しました。それから入浴と自由時間を経て、19時半から2時間程VPI職業興味検査を実施しました。この検査は、各自の希望とは別に、潜在意識の中にある職業興味を理解するもので、いわゆる「心理テスト」です。様々な結果が出ましたが、学生が自分の将来を考える良い機会になったと思います。22時半に就寝して初日を終了しました。

翌日は、6時半に起床、朝食を摂って休暇村を後にしました。毎年の事ですが、夜更かしをした学生も多く、寝起きは悪い様子でしたが、宿泊部屋の片付けはしっか

り出来ており、“さすがは高専生”と感心しました。9時過ぎにスキー場に到着し、直ちに班毎に分かれて、14時半頃までスキー技術の向上に励みました（昼食は牛丼）。上達の最も遅い班でもリフトで移動して研修を始め、研修の終わる頃には、ほぼ全員が雪上を優雅に滑っていました。それから、スキー用品を返却して、スキー場を後にし、途中“道の駅なるさわ”で土産物を購入して、17時過ぎに帰校しました。

初日は、転倒したり思い通りに止まれず、“やめたい”とか“帰りたい”と言っていた初心者の学生も、2日間の研修が終わる頃には、自信に溢れた姿で滑っており、とても印象的でした。“鉄は熱いうちに打て”と申しますが、3年生は今がまさにその時であり、正しく教え、集中して鍛錬させれば、短期間でも立派に成長することが判り、私たち教職員の使命を改めて感じた2日間でもありました。

ロボットコンテスト2013

信じて努力し続けること ～ロボコン部の挑戦～

ロボコン部顧問 電子制御工学科
青木悠祐

日頃よりロボコン部の活動へのご理解とご声援をありがとうございます。今年度もアイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト（高専ロボコン）に向けた沼津高専ロボコン部の挑戦をご報告させていただきます。第26回の競技課題は、「Shall We Jump?」（シャル・ウィ・ジャンプ）。生き物を模したバラエティあふれるロボット達が、高専生と協力して大縄跳びをする競技です。今回も昨年に続き、コントローラーなしで競技を行いました。高専生と縄回しロボットやジャンパーロボットが、コントローラーを使わずに協調作業を行うなかで、どのようにコミュニケーションを取り、タイミングを合わせながら課題をクリアしていくのか、息を合わせるためのアクションも見どころの競技です。

10月20日に鈴鹿市立体育館で行われた東海北陸地区大会に向けて、沼津高専からはAチーム「ケリュネイアの鹿（ケリュネイアノシカ）」、Bチーム「オク跳ばす!!!（オクトバス!!!）」の2チームが出場しました。ロボコ



研修の間は天候にも恵まれ、大きな事故も無く、全員無事に帰校出来て、学生たちと大変有意義な時間を過ごすことができました。最後に、各施設の方々を始め、この合宿研修の為に多くの貴重な時間を費やしていただいた関係者の皆様に深く感謝の意を表します。

ン部部长C4福井君のもと、AチームリーダーS3鈴木君、BチームリーダーD2鈴木さんを中心として総勢30名の部員たちが4月下旬にルールが公開されてからの約半年間、文字通りアルミ色の青春の日々を過ごしました。結果として、Aチーム「ケリュネイアの鹿」は当日朝にテストランを通過し、順調に練習していたもののハードの故障により1回戦敗退となってしまいましたが、すべてのハード・ソフトが完成した状態で勝負に挑むことができたのは学生にとって非常に良い経験になりました。それに対してBチーム「オク跳ばす!!!」は初戦、2回戦、3回戦と勝ち進み、準決勝、ベスト4に残ることができました。また、漁船とタコの装飾・動きが評価され「デザイン賞」を取ることができました。試合できちんと戦い、勝利をしたのは数年ぶり、部員一同大変喜んでいました。試合に参加した2年生3人組の戦いぶりを翌日のニュースでも取り上げていただき、学生たちにとって大きな一歩となりました。残念ながら全国大会への切符をつかみ取ることはできませんでしたが、来年に向けて大きな前進になったことは間違いありません。

全国大会に出場したいと思うだけでは夢は叶いません。全国出場を信じて努力し続けること、続けることで失敗も、挫折もいつか成功に変わります。次は全国です。今後ともロボコン部へのご声援をどうぞよろしくお願い致します。



「努力」を「結果」に

ロボコン部部长 物質工学科4年
福井 慧 賀

昨年度、私は部長として「勝躍（かつやく）」を沼津高専ロボコン部の目標として掲げ、全国高等専門学校ロボットコンテストでの全国大会出場を目指しました。この目標は試合に「勝つ」ことで「活躍」するという意志を表したものです。しかし、昨年度の東海北陸地区大会での結果はA、B両チームとも1回戦敗退という非常に悔いの残るものとなりました。次の大会こそは「勝躍」の目標を達成したいという思いから、私は部長を続けることを決意しました。

今年度の活動を始めるにあたり、昨年度の活動の中で何が問題であったのかを部全体で検討しました。その結果最も大きな問題点として、ロボットの設計・製作につ



いての作業予定に対し実際の進行度が非常に遅れていることが挙げられました。大会で勝つためにはロボットが完成していることはもちろんのこと、競技内容を再現しロボットやチームメンバーの動きなどを練習することが必要不可欠です。昨年度も日程を注視してロボットの製作を行いました。設計通りの機能を実現するために多くの時間を必要としてしまいました。そこで、今年度はロボットの設計を単純化し、作業工程を減らすことをロボット製作の方針としました。

ルールが発表された4月下旬から、競技課題をクリアするために必要となる機能を考えることを中心にロボットの設計を行いました。作業に余裕ができたことで、昨年度より順調にロボット製作が進みました。実際にロボットを動かして練習を行い改良を重ね、地区大会当日を迎えました。

入念な調整をして試合に臨みましたが、Aチームは直前のメンテナンス時に見落としがあり残念ながら1回戦敗退となってしまいました。しかし落ち込むことなく、1回戦を勝ち進んだBチームの調整に部員全員で団結し取り組みました。その結果、Bチームは準決勝進出を果たし、デザイン賞を受賞することができました。これは私がロボコン部に入部してからの4年間で最も良い結果でした。昨年度からの目標である「勝躍」を達成することができたと思います。

努力したことが全て結果につながるとは限らないが、努力なしでは結果は生まれません。ベスト4という結果までに4年が過ぎてしまいましたが、積み重ねてきた努力をついに結果に変えることができた実感しています。この感覚を忘れることなく、全国大会出場を目指し来年度も全力で活動していきたいと思っています。

東海北陸地区高専英語スピーチコンテスト

刺激を受けたスピーチコンテスト

制御情報工学科3年 後藤 麻希

私は、11月9日に東海北陸地区高専英語スピーチコンテストに出場しました。私は、英語のドラマを見たり、音楽を聴いたりすることが大好きです。そのきっかけは、中学生のときに出場したスピーチコンテストでした。そのため、お声をかけていただいたとき、高専に入学してもまたスピーチコンテストに出場できるんだ、と思い嬉しかったのを覚えています。

しかし、いざコンテストに出るとなると、人前で話すようなスピーチのテーマをなかなか決めることができず、担当の先生にかなりご迷惑をかけてしまいました。なんとかスピーチの内容が決まったのはコンテストの3週間

ほど前で、焦りを覚えつつも原稿を暗記し、発音に気を付ける単語に何度もチェックを入れました。本番の日、いざ発表するために壇上に立つと、審査員の方や他の方の視線はこちらに注目して、心臓がバクバク鳴っていました。私はこの光景を見て、中学生のころのスピーチコンテストを思い出しました。みんなが私を見ているなら、これは私の思いをみんなにぶつけることができる最高のチャンスなのではないか。壇上で頭が真っ白になってしまっても、本番では、ここを気を付けよう、など考えている暇はありません。しかし、たくさん練習を重ねてきたため、口の動きや身振りなど、体が勝手に動き、気が付くと発表は終わっていました。

お辞儀をして自分の座席に戻ると、他高専からいらしゃった外国人講師の方が、「あなたの英語、とても発音がきれいによかった。またあなたのスピーチを聞きたいわ。」と英語で話しかけてくださり、握手をしました。私はそれに対し「Thank you.」としか言うことができず、自分の英語力はまだまだ伸ばさなくてはいけないな、と

後悔しました。いつか海外へ赴いたときなど、外国人と不自由なく英語を話せる自分を想像して、これからの英語の勉強に力を注いでいきたいです。コンテストの結果は、惜しくも入賞することはできませんでしたが、海外でのエピソードを発表する学生や、国際科に所属する学生のスピーチも聞くことができ、とても良い刺激にな

りました。

4月からは、再活動するESS同好会に所属する予定です。ESS同好会では、英語にかかわるコンテストにもっと積極的に参加し、自分の可能性と自信を伸ばしていきたいと思います。

英語スピーチを経て

1年5組 小林 太郎

私は、今回の「東海北陸地区高専英語スピーチコンテスト」への参加は、自分にとって、とても貴重な経験だったと思っています。

私の夢は、現在所属している、物質工学科で学んだあと、医療分野で、新薬製造の研究の仕事に就く事です。

この分野は、国内だけでなく、全世界の最先端技術の塊です。ですから、研究や開発に関わっていくとするなら、より広い知識、考えを持った人たちと、関わっていかなくてはなりません。その時に、情報共有のために使われるのは英語です。ですから、この分野に関わっていくのならば、英語は、必須のものだと思います。

英語スピーチの募集の話聞いたとき、チャンスだと思いました。私は、自分の意志で、コツコツ積み重ねるのが大の苦手です。英語スピーチに参加することで、英語に触れる機会ができると思ったからです。

実際にスピーチに向けて動き出すと、想像以上に大変で、先生方にも苦勞を掛けてしまったと思います。また運悪く、高専祭の準備期間と重なってしまい、スタッフを掛け持ちしていたこともあって、練習も思うようにいきませんでした。

そして迎えた本番でしたが、スピーチの結果は、ひどいものでした。それでも、他の人の素晴らしいスピーチを聞くことができ、よかったと思っています。

私は、再始動したESSに加わり、今後も、こういったものに参加することも増えてくるでしょう。その時には、今回の失敗から学び、今回のような心残りの多い終わりを、迎えないよう意識していきたいと思っています。

自分の考えを文章にまとめ、それを英語訳する。できた文章を他の人に聞いてもらい、理解してもらう。そういった人と人をつなぐ、国際的な力をこの経験を通して、高専での5年間でつけていきたいと思っています。もちろんその為には、基礎となる単語数、文法が大切になってきますので、普段の授業にも真剣に取り組んでいきたいと思っています。

第8回読書感想文コンクール

読書感想文コンクールに寄せて

国語担当 中園 孝信

教養科1・2年生の朝読書は定着してきました。午前8時40分から10分間の読書ですが着実に効果は表れています。昼休みや休み時間に読書をする人が増えています。おそらく寮に帰っても読書をしていると思います。読書は習慣性があります。本を読まなければ読まなくて済んでしまいますが、本を読み始めると不思議に次から次に好奇心が倍加していきます。本を読む人と読まない人とは、情報を持っているか持っていないか、教養を積んでいるか積んでいないか、感性を磨いているか磨いていないかなどと差はどんどん広がっていくと思います。読書家の人と話をしてみてください、とても楽しいですから。

最近、電子機器でゲームをしている人をよく見かけますがゲームのとりこになってしまっています。時間を無駄にしているようで青春をもっと大事にしたらよいのに

と残念に思います。若いときにたくさん本を読まなければ年をとってくるとだんだん読めなくなってしまいます。

校内図書委員会主催第8回読書感想文コンクールには208編の感想文が寄せられました。自由図書の部と課題図書の部があります。自由図書の部最優秀賞は「『生涯最高の失敗』を読んで」を書いた1年4組の坂部靖奈さんです。坂部さんは、「日々実験を重ねる中で『いつもとは何かが違う』といった感触を持つこと、そのような勘を養うことが実験を成功させるかぎとなるということを改めて感じました。」と感想を書いています。課題図書の部は



青少年読書感想文全国コンクールと同じ書籍で、『歌え！多摩川高校合唱部』、『ジョン万次郎海を渡ったサムライ魂』、『宇宙へ「出張」してきます：古川聡のISS勤務167日』の3冊です。課題図書の一部最優秀賞は『『宇宙へ「出張」してきます：古川聡のISS勤務167日』を読んで』を書いた1年5組佐野華鈴さんです。「宇宙飛行士を学ぶことは、彼らの心の豊かさを知り、夢をかなえる壮大さを学ぶことだった。」と感想を述べています。坂部さんと佐野さんの感想文は秀逸です。優秀賞として20編が選ばれています。

2013年第148回直木賞に安部龍太郎著の『等伯』が受賞

『生涯最高の失敗』を読んで

1年4組 坂部 靖奈

昨年、京都大学の山中教授がiPS細胞の発見でノーベル生理学・医学賞を受賞され、日本中で話題になりました。私は他にもどんな先生がどんな技術や発見でノーベル賞を受賞されたのか知りたくなり調べてみました。その中で『生涯最高の失敗』という田中耕一さんの著書を見つけました。このタイトルを見て生涯最高の失敗とはどんな失敗なのだろう、失敗がノーベル賞を受賞するとはどういうことなのか、田中耕一さんはどんな人だろうかと非常に興味がわいたのでこの本を読んでみることにしました。

世界一のノーベル化学賞を受賞された先生だから少し変わった頭のかたい学者だろうと思っていましたが、田中さんはごくあたり前の会社員であることに私は驚きました。また、大学では化学を専攻していたわけではなく電気工学を学んでいて、大学卒業時には化学に関する基礎知識は高校で習った程度のものであったということを知り、さらに驚くだけでなく偉大な技術者にもかかわらずとても身近な存在に感じました。

また、田中さんが開発した質量分析の方法はなぜそのようなことが起こるのか、原理や理論が十分でないが、最初の発見だったから受賞に至ったということを知り、こつこつ実験をすることの大切さや仲間とのチームワークが大きな力になるのだと思いました。つまり、ノーベル賞は一人の天才や優秀な人物によって成し遂げられるものではなかったのです。ノーベル賞を受賞するのは一人ですが、それを陰で支える人達がいたからこそ一つのノーベル賞が生まれたのだなと思いました。田中さんの場合は小学校の先生をはじめとする学校の先生方や両親の影響を強く受けていたのだと感じました。私は自分が置かれた環境に感謝してもっと大事にしていきたいと思いました。

特に子供のころの体験を忘れずにしたいと私が思ったのは、このノーベル賞のきっかけとなった祖母の「もっ

しました。安土桃山時代から江戸時代初期にかけての障壁画絵師長谷川等伯の物語です。作者の阿部さんは久留米高専機械工学科の卒業生です。快挙です。高専からは多彩な人材が出現しています。

現在どんな本が読まれているかみなさんは気になりませんか。静岡新聞の日曜朝刊に「読書」という特集ページがあります。その中の「今週のベストセラー」に掲載されています。静岡の書店でよく売れている本を10冊紹介しています。読まなくてもいいですが今どんな本をみんなが読んでいるのかを知っているのも勉強になると思います。読書を始める第一歩です。

「たくない」というものを大切にしている精神が関係していたからです。今、「もったいない」という言葉が日本で見直されていますが、ecoの観点からだけでなく、捨てる前に本当に捨てるべきなのか、まだ何かに使えないかということを考えてみる必要があると思いました。

さらに、研究には創造性が重要だということを改めて感じました。この創造性を発揮するには、「勇気・挑戦・遊び心・偶然・努力・ひらめき・勘」などが必要なのですが、これらはだれでも、どこでも、いつでも、発揮できるもので、何ら特別なことではないのだと思います。私達高専生でも発揮できる能力なのではないかと感じました。これからの実験でもこの力を発揮できるように努力したいと思いました。

また、田中さんの発見は化学の専門知識があまりなかったから挑戦できたことでした。だから、専門知識がないという欠点は場合によって強みになり、利点として生かすこともできるという考え方が面白いと思いました。

こうして、田中さんが数々の実験を繰り返していく中で、使おうと思っていた試薬と別の試薬を間違えて使用してしまいました。田中さんはすぐに失敗に気がつきましたが、「もったいない」と思う気持ちと実験を続けていればそのうちデータがとれるだろうという偶然が重なり実験が成功しました。これが人生最高の失敗でありノーベル賞を受賞するきっかけとなったことは、私にとってあまりにも衝撃的でした。間違えたことに気づいたのにも関わらず、それを使った勇気はすばらしいものだと思います。さらに、物事をいろいろな視点から見ることができる能力はとても大切なものだと感じました。

そして、日々実験を重ねる中で「いつもとは何かが違う」という感触を持つこと、そのような勘を養うことが実験を成功させるかぎとなることを改めて感じました。

最後に、私は技術者になるために5年間高専で学んでいく中で先輩や仲間との関わりを大切に、日々の実験を通してなぜ、どうしてを様々な角度から考えられるように努力していきたいと思います。そして、人の役に立つような、社会に貢献できるような発見や発明をしたいと考えています。

夢をかなえる

1年5組 佐野華鈴

2011年6月8日の新聞の一面を飾った「ソユーズ宇宙船の打ち上げ」という文字が強く印象に残っている。私がこの本を手にとったのも宇宙という未知なる世界へ飛び出していった古川聡さんへの関心がそうさせたのだ。

筆者は古川さん本人。古川さんの宇宙での体験談から帰還後のリハビリまで細かく記してある。

宇宙飛行士という偉業をつとめる方の本だ。理解できないような難しい考えをお持ちなのではないだろうか。私は少し卑屈になっている部分があった。昨日までの私にとって宇宙飛行士とは「才能にあふれ、完璧主義で、冗談が通じない」という堅苦しいイメージだったからだ。しかし、この本は私のそんなイメージを一変させてしまった。古川さんは驚くほどユニークであった。

『あのさ、マイケルジャクソンの好きな色は？』

『ヒントくれよ』

『マイケルが歌うとき、叫ぶだろ？なんて叫ぶ？』

『あ、分かった。「アオ（青）」だ。』

古川さんと仲間のこんなやりとり。思わず私はクスリと笑ってしまった。古川さんはこのようなギャグを一生懸命考えてきては、仲間に披露するのが得意だったという。そんな古川さんは信頼も厚く、古川さんが宇宙飛行士として活躍することを誰もが信じていたという。冗談で人を笑わせる陽気さは、私の抱いた堅苦しさと大きく異なっていた。さらに驚いたのは、古川さんだけでなくISSの宇宙飛行士メンバーもそれに劣らないユニークさをかねそなえていたことである。中でも、帰還直前に事故が発生してしまった話では、滞在期間が延びるという不運をジョークのネタに動画を作成したそうだ。実際その動画はYouTubeで見ることができたが、楽しそうな雰囲気はとても不運に見舞われたような暗さを感じさせない。場が張り詰めてばかりではストレスがたまり、冷静さを欠いてしまうそうだ。少しのジョークで場を和

ませるだけでなく仲間とのコミュニケーションまでとれる。私は宇宙の生死と隣り合わせのような厳しい環境下におかれていないが、自分の不運をジョークにできるなんて到底できない。これが宇宙飛行士のもつ心の余裕、器の大きさだろうか。

唐突に失礼ではあるが、私には本を読む限りでは古川さんにはこれといった目立った才能はないような気がした。しいていえば、場を和ませる才能といったところだろうか。幼少期から学生時代の古川さんの生い立ちを見ても私たちと対して差はない。しかし、その中で大きく輝くもの、それは折れることを知らない努力と物事に対するすさまじい熱意と姿勢だ。古川さんはもともと医者であったが、33歳のある日ふと耳にした宇宙飛行士の公募の知らせに昔の宇宙へのあこがれが呼びさまされ受験を決意したという。医者という立派で安定した仕事に就きながらも33歳からの急な転職希望。思いきった行動力と子供のころからの夢をあきらめない純粋さ。ついに実現させてしまうのだからすごいものだ。そんな古川さんだからこそ、宇宙飛行士として活躍できるのもうなずける。私は古川さんのように強い意志も心の底から願えるような夢もない。古川さんに感心すると同時に自分と向き合うことができた。自分は夢がないといっているものの、早起きをする、テストで90点をとるといったささいな目標はある。それこそ十分に完遂できない私は、古川さんのように夢をもつことさえできないだろう。だが、私は古川さんを知ることで自分のそういった欠点に気づくことができた。宇宙飛行士のマイクさんやセルゲイさんも、古川さんのように人一倍の努力を積み重ねてきたに違いない。今まで宇宙飛行士を才能に恵まれているとねたんでいた自分が恥ずかしい。

やはりこの本を読み終えてみると、才能や努力以前に宇宙飛行士という存在はとても遠いものだと実感した。しかし、同時に大切なことも学んだ。夢はあきらめなければ必ずかなう。いままで絵空事を並べたような言葉だと感じていたものが急に現実味を帯びて頼もしく思えてきた。宇宙飛行士を学ぶことは、彼らの心の豊かさを知り夢をかなえる壮大さを学ぶことだった。

第7回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト

プレコン参加のご報告

英語担当 藤井数馬

1月25日(土)、26日(日)に東京のオリンピック記念青少年総合センターで第7回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(プレコン)が開かれました。あまり「プレコン」という言葉に馴染みがないかもしれませんが、少し説明させていただくと、ロボットコンテストやプ

ログラミングコンテストと同様、全国高専連合会の主催によって開かれる、高専生対象の全国規模の英語のコンテストです。今年で7回目を迎えたこのプレコンには、1人で行う「スピーチ部門」と、3人組のチームで行う「プレゼンテーション部門」の2つの部門があり、全国プレコンに出場するためには、スピーチの部では各地区大会で上位2名に入ることが条件になり、プレゼンテーション部門では録画したDVDの審査により全国で上位10校に入ることが条件になります。

今年、電子制御工学科4年生の高橋一将くん、物質工学科4年の鈴木佑季さん、同じく物質工学科4年生の寺前香里さんのチームがプレゼンの部の予選を通過し、沼



津高専としては初めて全国プレコンのプレゼンの部に出場しました。そして、全国大会では日頃の練習の成果を十分に発揮した素晴らしいプレゼンを英語で披露してくれ、見事に特別賞（日本工業英語協会会長賞）を受賞しました。

3人が取り組んだプレゼンは、“Kosen Girls, Be Ambitious!”というタイトルで、高専で学ぶ女性の特長

や可能性を、繊細な技術力、フラットな関係を築きながら話せるコミュニケーション能力、寮やクラスのリーダー経験などに代表されるリーダーシップの3つの視点から、エレノア・ルーズベルト夫人の言葉や日産ノート、キリンフリーなどの製造過程についての引用も用いながら論じました。

チームを結成してから約1年間、プレゼンのテーマを決め、構成を考え、英語で原稿を書き、何度も推敲を重ね、スライドを作り、3人の動きを確認しながら英語を暗誦していく、という根気のいる作業を本当によく頑張りと、最後の最後まで練習を頑張った高橋くん、鈴木さん、寺前さんの努力がかたちとして現れたのだと思います。チームワークも素晴らしかったです。また、この3人に続く学生が出てきてくれることも大いに期待しています。

末尾になりましたが、教育後援会には毎年ご支援をいただいておりますことを、この場を借りて心より感謝申し上げます。

退職教職員から



Numazu C.Tの ユニフォーム

教養科
中園孝信

沼津高専グラウンドの土を私が初めて踏んだのは今から40年前です。沼津の高校に赴任した私が野球部顧問として初めて練習試合で対戦したのは沼津高専野球部でした。当時の沼津高専野球部員は11期生12期生13期生でした。それ以来、毎年、お互いのグラウンドで公式試合や練習試合でしのぎを削りました。今、あしたか球場や裾野球場など大きな観覧席のある球場がありますが、以前は民家がそばにある沼津球場しかありませんでした。ファウルボールが住宅の屋根や窓にあたり迷惑をかけました。「前に打て！」とよく言ったものでした。現在東部大会はトーナメント方式で行われていますがそのころは沼津地区のリーグ戦でした。だからどこのチームにどんな選手がいるかということを知ることができました。沼津球場は準決勝・決勝だけの使用でしたから予選は各学校のグラウンドで行われました。グラウンドを見ればどのようなチーム方針を持ちどのような練習をしているかがうかがえました。他校のグラウンドを訪問することは試合の勝ち負けよりも勉強になりました。

御殿場西高に杉本正という左腕投手がいました。高校卒業後は大昭和製紙へ入社、そして西武ライオンズへ入団しました。沼津地区リーグ戦会場となった沼津高専グラウンドは観客でいっぱいです。杉本投手が沼津高専のブルペンで投球練習を始めるとブルペンの周りは大勢の人が取り囲んでいました。

約15年間私は沼津に勤務しましたが静岡県東部三島・田方地区へ転勤になりました。その後、静岡県内東・中・西部地区を巡り巡って沼津高専に勤務することになりました。教養科1年生の「国語基礎」、4年生の「文学特論」を担当しました。1年生のクラス担任をしました。若い教員は若い教員のよい所を、中堅は中堅の、ベテランはベテランのよい所を、城郭の石垣のように組織して柔軟な学年団ができたように思いました。また、若い教員からいろいろなことを教わりました。

野球部の顧問として再び沼津高専のグラウンドの土を踏みました。バックネット、ブルペンは40年前と変わっていません。伝統のユニフォームは、公式試合用は「Numazu C.T」のイニシャル入りで、練習試合着は「高専」の字が入ったユニフォームです。今までも、そしてこれからもずっと大切に受け続けられるユニフォームです。

私が在職したのはわずか2年間でしたが、気持ちは40年前に初めて沼津高専のグラウンドの土を踏んだ時の新鮮な気持ちです。



「7つの峰での3年間」

教養科（寮監）

福木 洋一

3年前のある日曜日、出勤すると学生寮7棟のうち4棟が断水していました。事情を聞くと断水は前夜9時ころから始まり、トイレをはじめ水が一切使えない状況がもう半日近くも続いているとのこと。しかし寮内は平靜そのもので普段の休日の朝と変わりありません。早速昨夜の様子を聞いたところ、寮生会役員や棟長の指導で「水の出る棟が夜中も玄関を開けてトイレを提供したこと」「深夜にもかかわらず水の出る棟から断水した棟へ全寮生で協力して水を運んだこと」などがわかりました。

断水はその後断続的に続き、完全復旧までに2日ほどかかりました。その間には断水状況に応じて3つの風呂の入浴時間や使用可能なトイレの利用を棟長たちの話し合いで融通し合い、その決定に全寮生が従うことでお互いに協力するなど、寮生たちの行動と対応は「見事

のひと言に尽きました。

私が以前勤務していた高等学校では、たとえ短時間の断水でも少なからず「パニック」が起きて、生徒から不平不満が噴出するのが当たり前でした。でも生活の場である学生寮で2日間も断水が続いたのに、私の耳には寮生からの不平不満は一言も入って来ませんでした。そればかりか断水の対応に忙しい私に「先生大変ですね」と労いの言葉を掛けてくれる寮生もいました。

平成23年4月から寮監として勤務した沼津高専学生寮の3年間、私はいろいろな場面で寮生たちの「思いやり」と「心づかい」を感じながら過ごしてきました。3年前の断水は沼津高専学生寮の持つ「思いやり」と「心づかい」が最大限に発揮された出来事だったと思います。

沼津高専学生寮の日々は素晴らしい寮生たちとの出会いの連続でした。寮のいろいろな行事では、寮生たちの溢れるばかりのパワーに接することができました。3年間無事勤めることができたのは教職員の皆さま、とりわけ寮務主事の遠藤良樹先生をはじめ寮務委員の先生方、寮務関係職員の皆さまのご支援とご協力、そして「翔栄光明清優秀7つの峰」の寮生の皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。



沼津高専職員としての思い出

総務課課長補佐（会計担当）

影島 義三

前任の東京水産大学（現東京海洋大学）から異動により沼津高専の職員として着任したのは、33年前の昭和56年3月でした。

その当時は、事務室には天井がなく梁やパイプがむき出しの状況で、夏暑く冬寒い状態でした。さらに、窓は鉄製のため錆で開けにくくなっており、青ペンキで塗られていて「古い建物だな」と思っておりました。

その後、東海地震対策として耐震改修が行われ現在のすっきりした外観になりました。

また、電子制御工学科棟、専攻科棟、講義棟等が相次いで新営されることにより、中庭の池がなくなり、駐輪場を移動するなど学校全体の配置が着任当初より随分変化し、さらに学生寮の改修や翔峰寮の新築もあり、学校全体の印象が明るくなってきたように思います。

私は、会計課用度係（物品調達の係）に配属になり、多くは会計畑を歩いてきましたが、途中10年ほど学生係、寮務係、入試担当として学生課に所属し、学生との交流も経験させていただきました。

寮祭では、終了後の挨拶の時に恒例の水掛けの洗礼を受けたり、スポーツ大会では、学生と相撲をとったり、ソフトボールではまぐれのホームランを打ってしまった

りと楽しい思い出ばかりです。入試担当では、進学説明会等の個別相談で受験生の希望に満ちた顔を見るのがうれしかった。また、技能五輪では補助学生の調整に苦勞し、当日は「弁当がでなかった」とか「行っても仕事がない」等の苦情処理に追われました。

会計では、西暦2000年にコンピュータが誤作動する可能性があるかと心配したのですが、杞憂に終わりほっとしたことや、数年に1回しかない政府調達案件となる事務用電算機や教育用電算機の契約に何度も関わり、昨年度は創立50周年記念の募金業務に携わる等の貴重な経験をさせていただきました。

これから沼津高専もさらに進化して行かざるを得ない状況で、教育方法等が大きく変化していくことと思いますが、本校の教育理念「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」は、これからも沼津高専生の永遠の指針として生きていってほしいと思います。

最後に、色々な思い出を作ってくれた沼津高専及び教職員、学生に感謝いたしますと共に更なる発展を祈念いたします。



卒業生・修了生から

高専での5年間

制御情報工学科5年 北風 玲太

高専に入学した当時は果てしなく長いだろうと思っていた5年間があったという間に経ち、卒業の日が近づいてきました。私の高専生活で多くの思い出があるのですが、その中から強く印象に残っている勉強と部活について書きたいと思います。

私は4月から大学へ編入するのですが、編入試験を通して学んだことが大きかったです。編入試験では大学によって異なりますが、試験教科に数学、物理、英語が多く、多くの大学に含まれています。数学、物理では1年生から4年生までに習ったことやその応用から出題されるのですが、私が受験勉強を始めた当初はほとんど忘れてしまっており、愕然としました。その時、力をつける勉強を自らすべきだったと後悔しました。高専では定期テストが年に4回あり、私はテストができないわけではなかったのですが、勉強方法が定期テストの点数をとるためだけのいわゆるテスト対策しかしていませんでした。テストの点数をとることは進級やクラス順位にかかわってくるため、大事なことではありますが、習ったことを自分の

知識にするために勉強することの方が断然大切だとわかりました。編入試験では範囲が広く暗記では太刀打ちできません。楽してきた分を取り返す勉強は本当に辛かったのですが、大学編入するまわりの友達と一生懸命に励みました。結果として希望していた大学へ合格することはできなかったのですが、受験勉強に励んだ期間はとても充実していたと今では思っています。

私は高専で空手道部に所属していました。部活に入ると勉強や趣味に使う時間が減ってしまうこともあります。時間の使い方を考えて生活することができます。空いている時間が多すぎると勉強なんていつでもできると考えてしまい、結局何もしないということがあると思います。また、部活に参加することにより、勉強や研究の疲れをリフレッシュさせることができました。もちろん部活から、高専大会を目指し練習した日々や仲間との思い出もたくさん得ることができました。4、5年生になっても部活を続けることは大変なときもありましたが、今では続けてよかったと心から思っています。

高専での5年間を通して勉強と部活の文武両道をするのができ、充実した期間を過ごすことができました。5年間お世話になった先生方や学生のみなさんありがとうございました。

後悔先に立たず

物質工学科5年 坂本 良太

沼津高専に入学してあっという間に5年が経ちました。寮生活、部活動、スタッフ活動、実験などいろいろなことを経験することができ、どれもいい思い出となりました。しかし、後悔していることがあります。それは「勉強」です。

沼津高専に入る前も勉強が嫌いでした。自分では勉強しないため塾に行かされ嫌々勉強していました。しかし高専に入ると両親のように勉強を強制する存在がないため勉強しなくなりました。また、中学校では授業時間が50分だったのに対して高専では90分なので授業中必ず眠くなりよく寝ていました。その結果、テストは60点をちょっと上回るぐらいの点数しか取れなくなりました。赤点をとるたびに、各先生に大変なお手数をいただいての再試験や再評価を行っていただけたので今の自分がいます。毎年首の皮一枚でつながっている状態での進級でした。先生方、本当にありがとうございました。

このような私も就職先から内定をいただけ、単位もすべて取ることができたため、卒業を迎えることができま

す。在校生の方やこれから高専に入学する人に言っておきたいことは「1日30分でもいいので勉強をしよう」です。1日30分の勉強でもするのとならないのでずいぶん違うと思います。少なくともテストで60点付近の点までしか取れないことはなくなると思います。また、寮などの環境を生かして分からない問題があったら放っておかず先輩や友人に聞くのもいい手段です。高専で学ぶ内容は難しいけど、必ず社会に出て通用するものだと思います。しっかり勉強して、人柄の良い優秀な技術者となり世の期待にこたえましょう。私も頑張ります。



三年間の研究室生活を振り返って

制御・情報システム工学専攻2年
飯谷 健太

本年度、私達青木研究室では日本テレビのリアルロボットバトル日本一決定戦という番組に出演させていただきました。本番では転倒などのアクシデントもあり、一回戦敗退という結果に終わりましたが公式な場で報告する機会もありませんでしたので、この場を借りて報告させていただきます。

青木研究室では普段、生体医工学分野、特に医療ロボットに関係する研究を行っています。そのため今回の企画のような2m級ヒューマノイドの設計・製作となると誰もが経験したことのない未知の領域でした。番組では青木先生の恋人を募集するなどなにかとネタ臭のひどかった青木研究室チームでしたが、大学生や社会人にはない高専生らしさを目指し、「如何に研究へとつなげるか」をコンセプトにしていました。あの番組の裏側では、意外に真面目にやっていたのです。まああまり真面目ではなかったかもしれませんが…。兎にも角にも、すべてがゼロからのスタートだったため開発は困難を極め、なにかから手を付けて良いかすらわからず、初めて試合に出せる

状態で動いたのは前日の昼のことでした。その時の喜びは強く印象に残っています。また、先生は設計・製作に直接手を加えないという信念を持っていたので、全てが学生の手で削りだされました。ですから製作の過程で学生同士の目に見えない衝突もありました。もちろん今となっては良い思い出です。

プロジェクト進行の中で一番大変だったのが、自分の研究テーマやサブテーマと同時並行でロボットの製作が進んでいったことでした。今年度はバブリシャスフーセンガムロボットや社会実装コンテストといった企画や2回の学会発表、学位審査と様々なことが重なり、息つく暇もありませんでした。大変充実した一年間だったと思います。

最後に、青木先生が「最大の成果は研究室の学生一人ひとりに成長が見られたことだ」というようなことをおっしゃっていました。自分では成長したのかどうかよくわからないというのが本音なのですが、5年生で研究室に配属された頃から考えると変わったなあと思います。青木先生には感謝してもしきれない恩があります。私の将来の夢は教員になって自分がしてもらった事を学生にしてあげることです。専攻科修了ということで、ロボットバトルへの応援の感謝を含め、これまで支えてくれたたくさんの方の先生、友人、両親へのお礼で締めたいと思います。ありがとうございました。

専攻科での経験

応用物質工学2年 見原 翔子

私は本年度専攻科を修了し、大学院に進学します。昨年大学院を受験するためにいくつかの大学の研究室を訪問しました。専攻科の知名度は低く、専攻科とは何かという説明をしたこともありました。しかし、専攻科を知っている先生方は専攻科生を高く評価してくださいました。特に以下の2つの点で高く評価していました。

1つ目は、論理的に文章を書く能力が身につけていることです。訪問した研究室の先生は「専攻科を修了した学生の文章は直しが少なく済む」とおっしゃっていました。文章を書く能力が身に付くのは、本科の卒業論文、専攻科での学位論文、学会発表などを通して論理的に文章を書く経験が多いためだと思います。私も多くの文章を書きました。5年生の最後に卒業論文を書いた際は、文章を先生に添削していただくまで真っ赤になって返ってきました。直していただけるのはありがたかったです。自分の書いた文章がほとんど残っていなかったときはショックでした。しかし、専攻科2年生になってからは徐々に直される箇所が減ってきました。文章を書くコツ

がつかめてきたのだと思います。英語で書いた学会要旨がほとんど直されずに返ってきたときはうれしかったです。やがて、後輩の文章の添削を任されるようにもなりました。

2つ目は、根性があるということです。訪問した研究室の先生は専攻科の修了生が出したデータを見せてくださいました。そのデータは2日間ほぼ睡眠をとらずに実験して得られたものでした。専攻科生は卒業研究を含め、3年間の研究を行います。根性があるのは同年齢の大学4年生と比べて研究する期間が長く、様々な経験をしているためだと思います。また、大学に比べて設備が整っていないため、その分手間をかけて実験する経験をしていることも挙げられます。大学の装置だとボタン1つ押せば済む操作が、高専の装置だと何段階もの操作を行わなければならないこともあります。

4月から大学院での研究生生活が始まります。先輩方の築いた専攻科の評価を下げないよう努力しつつ、大学院での生活を楽しまたいと思います。専攻科に在籍していた2年間、課題や研究に追われてハードな日々を過ごしましたが、多くのことを経験させていただくことができよかったです。私がこう思えるのは様々なミッションを与えてくださった先生方のおかげです。ありがとうございました。

私の高専時代



他のリーダーの目に 恐さを感じたか

教養科
小林 美学

「にんじん」、それが子ども会での私のあだ名であった。自分が高専生の頃、私は市内の高校生と中学生（現在は社会人もいる）から構成される子ども会のリーダークラブに属し、子ども会に関する活動をしていた。主な活動は、巡回と呼ばれる活動であった。巡回活動では、子ども会から声がかかるとまずはそこに出向き、役員さんや5、6年生とキャンプ、クリスマス会、あがり子下がり子会（一年生を迎える会と六年生を送る会）、お楽しみ会などの行事の立案をする。当日までに必要な準備があればその役割分担もする。その後、当日までに役員と何回か電話で打ち合わせをした後、当日再びそこに出向き、子ども会のお手伝いをするというのが一般的であった。

飯盒炊飯、キャンプファイヤー、キャンドルセレモニー、ゲーム大会、ウォークラリー、ペープサート（紙人形劇）など、その時の子どもたちの目の輝きとともに多くの思い出がある。技術的には未熟であっても、子どもたちが「に～んじ～ん」と呼びながら寄ってきてくれ

るのが何よりうれしかった。今から思えば、何かと自分に自信が持てず悶々としてしまいがちのあの時期に、無条件に自分の存在を受け入れてくれる子どもたちと触れ合えたことに自分自身が大いに助かっていたように思う。

しかし2年生までは、寮生活のための制約もいろいろあった。毎週水曜日の夜に高校生の例会があったが、点呼のためにそれに参加できず、歯痒い思いもした。携帯電話もなく、寮に2つしかない電話は一回に3分以内と定められていた時代、役員さんからの電話が長くなってしまい、寮監の先生に電話中に大声で怒鳴られたこともあった（大声にびっくりした役員さんが電話のむこうでひどく恐縮していて、かえって申し訳ない気持ちになってしまった）。

ところで当時、この活動を指導してくださっていた顧問の先生は、反省会の度に私達に「自分が子どもの前に立っている時に他のリーダーの目に恐さ（怖さ）を感じたか振り返りなさい」とおっしゃっていた。リーダーとして子どもの前に立つ私達に、慢心があってはいけない、常に謙虚であるようにとの戒めの言葉であるとともに、お互いに向上心を持って真剣に学び合いなさいという意味であったと思う。その言葉は今でも私の耳から離れない。今でもふとした時に思い出し、今の自分が向上心を持って物事に真剣に取り組んでいるか問い直す言葉でもある。

学生の研究活動（2013.3.20～2014.3.31）

論文発表

（学生が第二著者等であってもすべて記載。）

電気電子工学科（機械・電気システム工学専攻含む）

学科・学年	著者名(共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論文題名	指導教員
ME2	○室伏由喜菜 佐藤憲史	沼津工業高等専門学校研究報告, 第48号 (2014年)	ファイバブラッググレーティングを用いた振動計	佐藤憲史
ME1	○江間敏 川口直輝	沼津工業高等専門学校研究報告, 第48号 (2014年)	トライアックパワー回路の設計・製作	江間敏
ME2	○鈴木駿太 高野明夫	沼津工業高等専門学校研究報告, 第48号 (2014年)	極ゼロ相殺法に基づく二相同期リラクタン スモータのセルフチューニング制御	高野明夫

電子制御工学科（機械・電気システム工学専攻及び制御・情報システム工学専攻含む）

学科・学年	著者名(共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論文題名	指導教員
ME1	○鈴木智久 大庭勝久 安田昇平	沼津工業高等専門学校研究報告, 第48号 (2014), 掲載予定	熱線流速計の低速気流計測法に関する基礎研究	大庭勝久
DS2	○馬飼野祐貴 伊庭達哉 大沼巧	IEEJ Journal of Industry Applications, Vol. 3, No. 3, 2014 (Accepted)	Maximum Torque Response Control Based on Maximum Torque Control Frame	大沼巧

制御情報工学科 (制御・情報システム工学専攻含む)

学科・学年	著者名(共著者) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論文題名	指導教員
DS2	○杉山友朗 鈴木康人	情報処理学会第76回全国大会講演論文集, 掲載予定	OBDDにおける入力反転エッジの応用に関する研究	鈴木康人

物質工学科 (応用物質工学専攻含む)

学科・学年	著者名(共著者) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論文題名	指導教員
C4 C2	○芳野恭士 芳野文香 芳野広起 竹口昌之	技術・教育研究論文誌, 20巻1号(2013) 21-29	2007年~2011年における門池の水質の変化	芳野恭士

講演発表

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。なお、賞を受賞した場合は赤字で記載する。)

平成25年電気学会全国大会/名古屋大学/2013.3.20

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS2	渡邊優太郎	エポキシ樹脂/ナノ・マイクロコンポジットの交流高電界下での電荷挙動とその厚さ依存性(遠山和之, 廣瀬雄一(早稲田大学), 大木義路(早稲田大学), 小迫雅裕(九州工業大学))	遠山和之
DS2	馬飼野祐貴	IPMSMの最大トルク制御座標系におけるトルク応答の評価(伊庭達哉, 大沼巧)	大沼 巧
DS2	馬飼野祐貴	トルク脈動を発生させない信号重畳法を用いた位置センサレス制御におけるパラメータ誤差の影響(伊藤彩花, 大沼巧)	大沼 巧

2013 IEEE International Conference on Solid Dielectrics/ポローニャ大学(イタリア)/2013.7.4

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS2	渡邊優太郎	Charge Behavior of Epoxy/Silica Nanocomposites under AC High Fields(遠山和之, 廣瀬雄一(早稲田大学), 大木義路(早稲田大学), 小迫雅裕(九州工業大学), 田中康寛(東京都市大学), 三宅弘晃(東京都市大学), 川野翔平(東京都市大学))	遠山和之

高専連携教育研究プロジェクト/豊橋技術科学大学/2013.8.23

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME1	関 篤志	ポリエチレンテレフタレートの高電界誘電特性	遠山和之

ロボティクス・メカトロニクス講演会2013/つくば国際会議場/2013.5.22~25

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS2	飯谷健太	胸部超音波診断における断層像取得アプローチの熟練度計測(梅原優太, 富岡悠二)	青木悠祐
DS2	脇坂 久	CFRP複合材を用いた超音波診断・治療補助ロボットReDATの開発(杉山隆介, 西村和真, 片山晃次郎)	青木悠祐
DS1	梅原優太	オクルージョンを考慮した計測環境構築と超音波診断手技計測への適用(飯谷健太)	青木悠祐
DS1	富岡悠二	超音波プローブ走査時における疲労計測システムの構築(飯谷健太)	青木悠祐
DS1	福永航希	高速旋光測定装置の開発(大久保進也)	大久保進也

電気学会産業応用部門大会/山口大学/2013.8.23

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME2	鈴木駿太	極ゼロ相殺法を用いた二相同期リラクタンスモータの制御(高野明夫)	高野明夫

電気学会産業応用部門大会/山口大学/2013.8.28

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5 DS2	村串憲一郎 馬飼野祐貴	永久磁石同期モータの信号重畳によるインダクタンス変動の評価(梅原毅, 大沼巧)	大沼 巧
D5 DS2	荻原淑樹 馬飼野祐貴	最大トルク制御座標系を用いた電流制御系における電流軌跡の評価(伊庭達哉, 大沼巧)	大沼 巧

GPGPUコンピューティングシンポジウムin長岡技術科学大学/長岡技術科学大学/2013.8.28

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	中村優太	有限要素法のKernel-Free GPU実装と円柱周りの流れの数値計算(中村優太, 望月麟太郎, 出川智啓)	出川智啓

生活生命支援医療福祉工学系学会連合大会LIFE2013/
山梨大学 甲府西キャンパス/2013.9.2

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME1	酒井香里	母音のフォルマント特性に基づいた話者判別	鄭 萬 溶

日本機械学会/岡山大学 津島キャンパス/2013.9.9

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME2	山本 修	ゲルとスライダクランク機構を用いた搬送システムの開発(山中仁)	山中 仁

ETロボコン2013東海地区大会/
デンソー本社5号館/2013.9.22

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	稲鶴和也 荻 貴大 荻野皆行 清水祥平	ETロボコン競技用ソフトウェアの開発	牛丸真司

(公社) 日本設計工学会/名城大学/2013.10.5

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME2 M5	山本繁樹 千葉玲央	人間の歩行開始時の運動を支援する空気圧装置の開発(村松久巳)	村松久巳

日本機械学会/山梨大学工学部/2013.10.26

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME1	石田裕哉	温度変動下でのフランジ締結体のボルト軸力変化(小林隆志, 糸井克豊, 平塚雅章, 西浦謙剛, 森本史一)	小林隆志
ME1	鈴木洋輔	高温におけるフランジ締結体のガスケット変形量の測定(小林隆志, 佐藤広嗣, 辻裕一)	小林隆志

日本機械学会 第91期流体工学部門講演会/
九州大学 伊都キャンパス/2013.11.10

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	伊藤丈矩	渦法における時間積分法の改良(伊藤丈矩, 出川智啓)	出川智啓

第43回石油・石油化学討論会/
北九州国際会議場/2013.11.14

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
CB2	谷口勇貴	セルラーゼによるペーパースラッジ糖化阻害因子の解析	蓮実文彦 竹口昌之

第56回自動制御連合講演会/
新潟大学工学部/2013.11.16~17

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS2	飯谷健太	超音波プローブ走査における検者・被検者の特徴量抽出とアプローチ評価(梅原優太)	青木悠祐

DS2	脇坂 久	超音波診断・治療補助ロボットReDATを用いた断層像取得アプローチ(西村和真)	青木悠祐
DS1	梅原優太	超音波診断手技計測のためのハード・ソフト両面からのオクルージョン対策(飯谷健太)	青木悠祐
DS1	富岡悠二	脳波・筋電データを用いた超音波診断における検者・被検者の疲労計測システムの構築(飯谷健太)	青木悠祐
DS1	西村和真	超音波診断・治療補助ロボットReDATによる体位変換に対応可能なプローブ位置・姿勢制御系の構築(脇坂久)	青木悠祐

電気学会メカトロニクス制御研究会/Aオーレ長岡/
2013.11.22~23

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME2	渡邊 魁	触覚機能を有する小型把持・操りシステムの開発	山之内 亘

富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2013/
キラメッセぬまづ/2013.11.25

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME2	室伏由喜菜	ファイバブラググレイティングを用いた振動計	佐藤憲史
ME2	勝又一穂	16bitマイクロコントローラを使ったデジタルフィルターの製作	望月孔二
ME1	川口直輝	磁気浮上式鉄道、二層配置推進コイルのサージ特性 機械・電子制御・ロボット分野優秀ポスター賞	江間 敏
ME2	荻島広也	可逆チョップを用いた電動補助車椅子の電流フィードバック制御	高野明夫
ME2	鈴木駿太	極ゼロ相殺法による同期リラクタンスモータのセルフチューニング位置制御	高野明夫
ME1	西岡裕訓	金属表面における粒子輸送の計算	西村賢治
ME2	室岡 亨	ステレオカメラと無線LANアダプタによる電波強度分布の測定	嶋 直樹
D5 D5 D5	佐藤圭佑 山崎陽平 伊與田耕輔	結合BZ振動子系における同期モードの研究 バイオ・生物分野優秀ポスター賞	江上親宏
DS1 D5	吉田拓馬 栗田心大	van der Pol型結合振動回路におけるリミットサイクルの個数と結合条件	江上親宏
DS2	藤永敏輝	二足歩行型分散移動ロボットの開発	川上 誠
DS2 D5	望月玲央奈 木村美咲	人間が容易に操作可能な群ロボットシステムの開発	川上 誠
DS1 DS1 D5	北川琢真 諏訪部 純 室伏恵実	風船ガムを膨らませるロボットの開発 機械・電子制御・ロボット分野最優秀賞	川上 誠
DS1 DS1 D5	諏訪部 純 北川琢真 田代智貴	ロボカップジュニアサッカーチャレンジ用ロボットのプラットフォームの開発	川上 誠
D5	遠藤祐太郎	Wavelet変換を用いた脳波解析	鄭 萬 溶

ME1	酒井香里	多音節音声信号に含まれる話者の個人成分抽出	鄭 萬 溶
ME2	村瀬慶和	基本周波数の時間変化による話者判別	鄭 萬 溶
DS2	諏訪佑介	交通流シミュレーションシステムの開発	鄭 萬 溶
D5	松永泰人斗	埋込磁石同期モータの位置センサレス制御	大 沼 巧
D5	秋山隼人	超音波診断・治療補助システムにおける患者体位変換に適応したロボット制御系の構築(西村和真, 脇坂久)	青木悠祐
D5	佐野徳美	看護師・患者サポート機能を有する点滴台ロボットシステムの開発(梅原優太) 医療・健康・食物分野優秀ポスター賞	青木悠祐
D5	鈴木克真	モーションキャプチャシステムを用いたバスケットボール動作解析に関する基礎検討(飯谷健太) 機械・電子制御・ロボット分野優秀ポスター賞	青木悠祐
D5	田中優斗	等身大ヒューマノイドロボットにおける人間らしさを追求した全身動作(富岡悠二) 機械・電子制御・ロボット分野優秀ポスター賞	青木悠祐
ME1 D5	鈴木智大 大山本 稜	気流温度センサ用の自動検定装置の開発	大庭勝久
D5	鈴木雄太	抵抗線温度計の計測アルゴリズムに及ぼす熱伝導の影響	大庭勝久
D5	戸本佳佑	高精度熱流体計測に向けたFPGA補償系の融合	大庭勝久
D5	藤田陽平	気流中の熱物質拡散の解明に向けた基礎研究	大庭勝久
DS1	福永航希	高速旋光測定装置の開発(大久保進也)	大久保進也
S5	石田隼己	小型Linuxボードを用いた組込みメカトロニクスの教育展開(小林巧祈)	山崎悟史
CB2	近藤郁美子	Salacia reticulataのマウス皮膚炎抑制作用(芳野恭士, 金高隆, 古賀邦正)	芳野恭士
CB1	善養寺優香	香煎茶のマウス血糖上昇抑制作用(鈴木百, 清水康夫, 鳴嶋茂治, 芳野恭士)	芳野恭士
CB2	谷口勇貴	セルラーゼによるペーパーラッジ糖化阻害因子(蓮実文彦, 竹口昌之)	蓮実文彦 竹口昌之
CB2	新美茉莉	糞便由来ポルフィリン類をマーカーとした新規消化管癌検診法の開発(蓮実文彦, 竹口昌之)	蓮実文彦 竹口昌之
C5	青木 湧	ろ紙やキムワイブを培地支持体利用したチャ(茶樹)の不定胚培養(根本彩乃, 古川一実)	古川一実
C5	小野貴透	ソノキャタリシスを用いるセルロース類の加水分解(稲津晃司) 材料・触媒分野最優秀賞	稲津晃司

CB1	鈴木康平	凝集性酵母による製紙廃水中セルロース微細繊維の凝集(藤井力, 志田洋介, 小笠原渉, 蓮実文彦, 竹口昌之)	竹口昌之
-----	------	--	------

第27回数値流体力学シンポジウム/ 名古屋大学 東山キャンパス/2013.12.19

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	伊藤丈矩	渦法への4次精度Hermite積分法の適用(伊藤丈矩, 出川智啓)	出川智啓

文部科学省 原子力人材育成事業「機関連携による防災・安全教育を重視した実践的原子力基礎技術者育成の実施」/ キャンパス・イノベーションセンター/2013.12.21

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
E5	杉平夏樹	原子力人材育成教育活動成果報告	西村賢治

産学連携環境エネルギーシンポジウム2014/ 小山工業高等専門学校/2014.1.25

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME2	室伏由喜菜	ファイバブラッググレーティングを用いた振動計	佐藤憲史

第19回高専シンポジウムin久留米/ 久留米工業高等専門学校/2014.1.25

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
E5	川島笙平	CexY(3-X)Fe5O12のエピタキシャル膜の形成	野毛 悟
E5	小林和也	半導体教育用教材の開発	野毛 悟
E5	杉山元気	ZnO系透明導電膜へのSnドーピングの効果	野毛 悟
E5	三浦卓磨	機能性石英ガラスの作製と評価	野毛 悟
D5	伊與田耕輔	光感受性を利用したBZ振動子のリズム制御	江上親宏
D5	佐藤圭佑	ポンプにより結合したBZ振動子系の同期モード分析	江上親宏
DS2	望月玲央奈	人間が容易に操作可能な群ロボットシステムの開発	川上 誠
DS1	北川 琢真	USBを用いたロボット周辺機器制御デバイスの開発	川上 誠
DS1 D5	諏訪部 純 齊藤卓也	強化学習による分散移動ロボットシステム	川上 誠
D5	秋山隼人	超音波診断・治療補助ロボットReDATにおけるプローブピボット動作のためのワイヤ駆動機構の開発(脇坂久, 西村和真)	青木悠祐
D5	佐野徳美	体動追従を目的としたビジュアルフィードバックのための断層像処理システムの構築(飯谷健太)	青木悠祐
D5	鈴木克真	バスケットボール動作におけるシュートモーション計測と熟練度評価(飯谷健太, 梅原優太)	青木悠祐

D5	田中優斗	人とロボットの協調動作を目的とした超音波診断・治療補助ロボットReDATにおけるプローブ反力制御系の構築 (脇坂久, 富岡悠二)	青木悠祐
----	------	--	------

第16回化学工学会学生発表会 (東京大会) /
東京工業大学 大岡山キャンパス / 2014.3.1

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
C3	安藤知佳	タケの酵素糖化によるグルコース生成条件の検討 (竹口昌之)	竹口昌之

電気学会モータドライブ / 家電・民生合同研究会 /
電気学会 (東京) / 2014.3.6

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
D5 DS2	齋藤亮 馬飼野祐貴	埋込磁石同期モータの位置センサレス制御のための信号振幅決定法 (大沼巧)	大沼巧

電子情報通信学会東海支部 平成25年度卒業研究発表会 /
三重大学 環境・情報科学館3階 / 2014.3.10

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
S5	渡邊 領	シャドウイング環境下マルチホップ通信におけるネットワーク全体電力の理論解析	山崎悟史
S5	栗林隆太	シャドウイング環境下マルチホップ通信におけるルーティングプロトコルが端末消費電力に与える影響	山崎悟史

日本音響学会2014年春季研究発表会 /
日本大学理工学部 駿河台キャンパス / 2014.3.12

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
ME2	村瀬慶和	Wavelet変換を用いた特徴量抽出に関する研究	鄭 萬 溶

情報処理学会第76回全国大会 /
東京電機大学 / 2014.3.13

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
DS2	杉山友朗	OBDDにおける入力反転エッジの応用に関する研究 (鈴木康人)	鈴木康人

第76回情報処理学会全国大会 /
東京電機大学 東京千住キャンパス / 2014.3.13

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
DS2	諏訪佑介	交通シミュレーションシステムの開発	鄭 萬 溶

情報処理学会 [モバイルコンピューティングとユビキタス通信] 第70回研究発表会 /
慶應義塾大学 日吉キャンパス 独立館 / 2014.3.14~15

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
S5	石田隼己	農作業最適化に向けたオープンなM2Mセンサネットワークの開発—システム概念と基本伝送特性—	山崎悟史

日本機械学会 東海学生会第45回学生員卒業研究発表講演会 /
大同大学 / 2014.3.17

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
M5	石橋 航	CFRP積層板のパンチプレスによる穿孔加工 (松田伸也, 黄木景二)	松田伸也
M5	中司雄大	手巻きウインチを題材とした設計製作教材の開発 (松田伸也)	松田伸也
M5	宮川綾音	液晶ディスプレイを利用した光弾性による応力解析 (松田伸也)	松田伸也
M5	渡邊信太	静的負荷を受けたチッ化ケイ素の残存強度特性 (松田伸也)	松田伸也
ME1	鈴木智大	デジタル遅延補償系による二線式温度流速計の空間分解能の向上	大庭勝久
D5	鈴木雄太	抵抗線温度計における周波数補償系の高精度化	大庭勝久
D5	戸本佳佑	熱輸送現象における時空間構造の解明に向けた計測システムの開発	大庭勝久
D5	藤田陽平	密度成層乱流の輸送機構に関する実験的研究	大庭勝久

電気学会全国大会 / 愛媛大学 / 2014.3.18~20

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
ME2	渡邊 魁	物体把持システムへの触覚応用	山之内 亘

化学工学会第79年会 / 岐阜大学 / 2014.3.18~20

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
CB2	見原翔子	ペーパースラッジを糖化する <i>Geobacillus</i> sp. NTS46 の性質 (藤原南帆, 蓮實文彦, 竹口昌之)	竹口昌之

日本化学会第94春季年会 (2014) /
名古屋大学 東山キャンパス / 2014.3.27~30

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
C5	金子喬士郎	セルラーゼによるペーパースラッジ糖化反応阻害因子の解析 (蓮實文彦, 竹口昌之)	蓮實文彦 竹口昌之

平成25年度卒業生・修了生進路先一覧

平成26年3月4日現在

機械工学科

33名

就職先企業

22名

DMG森精機株式会社	1
株式会社IHI	1
アステラス ファーマ テック株式会社	1
出光興産株式会社	1
オーエスジー株式会社	1
花王株式会社	2
興和株式会社	1
株式会社小松製作所	1
株式会社三協	1
サンワテクノス株式会社	1
東燃化学合同会社	1
東プレ株式会社	1
日立建機株式会社	1
富士鋼業株式会社	1

富士重工業株式会社	1
富士乳業株式会社	1
ブリヂストンサイクル株式会社	1
マルスン株式会社	1
三浦工業株式会社	1
株式会社ヤクルト本社	1
レンゴー株式会社	1

進学（編入学）先大学等

11名

東北大学工学部	1
東京農工大学工学部	1
横浜国立大学理工学部	1
長岡技術科学大学工学部	3
豊橋技術科学大学工学部	2
専攻科	2
進学希望	1

電気電子工学科

40名

就職先企業

26名

Meiji Seikaファルマ株式会社	1
伊豆技研工業株式会社	1
株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー	1
キャノン株式会社	1
興和株式会社	1
サッポロビール株式会社	1
株式会社資生堂	1
中部電力株式会社	1
東海旅客鉄道株式会社	1
東京コンピュータサービス株式会社	1
東京電力株式会社	2
株式会社東芝	1
東洋インキSCホールディングス株式会社	1
日本たばこ産業株式会社	1
沼津市役所	1
パナソニック システムネットワークス株式会社	1
富士通株式会社	1
富士乳業株式会社	1

株式会社前島電気工業社	1
丸富製紙株式会社	1
ムラテックCCS株式会社	1
株式会社明電舎	1
株式会社ヤクルト本社	1
ユニチカ株式会社	1
株式会社吉野工業所	1

進学（編入学）先大学等

14名

東北大学工学部	1
千葉大学工学部	1
長岡技術科学大学工学部	1
新潟大学法学部	1
山梨大学工学部	1
富山大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	4
大阪大学工学部	1
九州大学工学部	1
早稲田大学先進理工学部	1
立命館大学理工学部	1

電子制御工学科

42名

就職先企業

21名

CTCテクノロジー株式会社	1
株式会社NTTネオオミット	1
株式会社NTTぷらら	1
THKインテックス株式会社	1
株式会社小松製作所	1
三明電子産業株式会社	1
株式会社東海ソフトウェア	1
東芝機械株式会社	1
東芝プラントシステム株式会社	1
東芝メディカルシステムズ株式会社	1

トッパン・フォームズ・オペレーション株式会社	1
新倉工業株式会社	1
ニフティ株式会社	1
浜松ホトニクス株式会社	1
日立アプライアンス株式会社	1
株式会社日立パワーソリューションズ	1
富士重工業株式会社	1
富士乳業株式会社	1
株式会社三ツ和	1
株式会社安川電機	1
ヤマハモーターエンジニアリング株式会社	1

進学（編入学）先大学等 21名

筑波大学情報学群	1
筑波大学理工学群	1
千葉大学工学部	1
東京工業大学工学部	1
金沢大学理工学域	1

名古屋大学情報文化学部	1
豊橋技術科学大学工学部	1
大阪大学工学部	1
奈良女子大学理学部	1
専攻科	12

制御情報工学科 39名

就職先企業 13名

株式会社Speec	1
伊豆技研工業株式会社	1
出光興産株式会社	1
サイバーエアリサーチ株式会社	1
サントリープロダクツ株式会社	1
セコムトラストシステムズ株式会社	1
株式会社大都技研	1
株式会社中央エンジニアリング	1
東芝機械株式会社	1
日本オーチス・エレベータ株式会社	1
日本たばこ産業株式会社	1
株式会社日立情報通信エンジニアリング	1
株式会社フォーラムエンジニアリング	1

進学（編入学）先大学等 26名

秋田大学工学資源学部	1
筑波大学情報学群	1
千葉大学工学部	2
電気通信大学情報理工学部	1
新潟大学工学部	1
山梨大学工学部	1
信州大学繊維学部	1
金沢大学理工学域	1
静岡大学工学部	1
静岡大学情報学部	3
名古屋工業大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	7
京都工芸繊維大学工芸科学部	1
大阪大学基礎工学部	1
神戸大学海事科学部	1
進学希望	2

物質工学科 48名

就職先企業 22名

KHネオケム株式会社	1
旭化成株式会社	1
イハラニッケイ化学工業株式会社	1
小野薬品工業株式会社 フジヤマ工場	1
オリンパステルモバイオマテリアル株式会社 三島事業所	1
花王株式会社 川崎工場	1
クノール食品株式会社	1
興和株式会社 富士工場	1
ジェイカムアグリ株式会社 富士工場	1
第一三共ケミカルファーマ株式会社	1
第一三共プロファーマ株式会社	1
株式会社タイカ	1
ダイキン工業株式会社	1
株式会社タウンズ	1
株式会社ツムラ	1
東燃化学合同会社	1
東燃ゼネラル石油株式会社	1
株式会社日幸製作所	1
日本マイクロバイオファーマ株式会社 磐田工場	1

町田食品株式会社	1
ユニ・チャームプロダクツ株式会社 静岡工場	1
株式会社リコー	1

進学（編入学）先大学等 25名

東北大学工学部	1
山形大学工学部	1
東京工業大学生命理工学部	3
横浜国立大学理工学部	1
信州大学繊維学部	2
金沢大学理工学域	1
静岡大学農学部	1
名古屋工業大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	1
広島大学生物生産学部	1
高知大学理学部	1
専攻科	11

その他 1名

帰国	1
----	---

機械・電気システム工学専攻 10名

就職先企業 8名

NOK株式会社	1
株式会社小松製作所	1
東海旅客鉄道株式会社	1
株式会社東京ウエルズ	1
トヨタ自動車東日本株式会社	1

富士鋼業株式会社	1
富士電機株式会社	1
横浜ゴム株式会社	1

進学先等 2名

筑波大学大学院・システム情報工学研究科	1
北陸先端科学技術大学院大学・情報科学研究科	1

制御・情報システム工学専攻 8名

就職先企業 3名

TOTO株式会社	1
株式会社アウトソーシングテクノロジー	1
三明機工株式会社	1

進学先等 5名

東京医科歯科大学大学院・医歯学総合研究科	1
東京工業大学大学院・総合理工学研究科	2
名古屋大学大学院・工学研究科	2

応用物質工学専攻 5名

就職先企業 4名

御殿場市役所	1
株式会社三協	1
株式会社ツムラ	1
日本食品化工株式会社	1

進学先等 1名

東京工業大学大学院・総合理工学研究科	1
--------------------	---

教育後援会から**卒業に際して**

教育後援会会長 鈴木 政 孝

晴れの門出を迎えられる卒業生の皆さん、そして、立派にご子息を育ててこられた保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

今年度は昨年度創立50周年から1年、学際教育という新たなカリキュラム導入も本格化し、さらに来年度から専攻科においても1専攻3コースの融合複合教育がスタートします。他高専に先駆けた新教育課程を積極的に導入されている校長先生や教職員の皆様におかれましては大変なご苦勞があったと思います。しかしその熱意は、学生に学業はもとより生活面、精神面のご指導へと向けられ、一方ならぬご配慮のおかげをもちまして卒業を迎えることができますことを保護者を代表して心から御礼申し上げます。

さて、卒業される皆さんは中学を卒業してすぐに自分の目指す道を明確にし、この5年間頑張ってきました。

自分が決めたあるいは好きな道を進むということは、辛いことや苦しいことがたくさんあったと思います。その壁を一つひとつ乗り越えてきた皆さんはとても強くなっています。これから就職、進学とそれぞれの道においてもこの5年間の経験はとても役立つことでしょう。

そこで僭越ではございますが、私が心の中で大切にしていることを饒の言葉として贈りたいと思います。

それは山本五十六の名言集のひとつ

「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、誉めてやらねば、人は動かじ」

やってみせて、言って聞かせてやらせてみて、褒めてやらないと人は動かないよ。

ということです。

いずれ、就職や進学した先で、リーダー的な役割を担う、あるいは、いずれ子の親となる時の子育ての場合、特に「やってみせ」はとても大事なことで心に留めておいていただきたいと思います。

それでは最後に卒業生の皆さんのこれからの旅立ちが素晴らしいものとなるよう、心よりお祈り申し上げ、卒業に際してのお祝いの言葉とさせていただきます。

卒業して42年、今思うこと

同窓会会長 (M6) 木 戸 実

卒業生並びにご父兄の皆様、この度はご卒業本当におめでとうございます。私は機械工学科6期生で、このように祝福されてから42年が経過しました。その間の事を振り返ると感慨深いものがあります。

私は最近の電車通勤には、スマートホンでインターネットを経由した映像付き音楽を楽しんだり、気になる情報の検索をしたりと、コンピュータと共に通勤する毎日です。42年前はコンピュータが学校図書館に1台あり、そ

れをみんなが交代で利用していた時代です。その性能が優に100万倍を超えたものを、一人一人にしかも複数台を所有し、何処でも利用できる、夢のような世の中になりました。

コンピュータに限らずあらゆる分野で弛まなく着実に進歩を重ねています。技術者や科学者がその精魂を傾けた成果だと思えます。一方、この技術進歩の恩恵が、一人一人の生活に、社会に、文化にどのように役立っているのだろうかと考えたときに、単純には技術進歩が社会の平和と幸せをもたらすものとは言えません。不祥事は論外としても、進歩の弊害として古くは高度成長における公害、最近ではほんの一例として環境問題や原発問題、食物のグローバル生産における安全面健康面への影響な

ど、直接的に目につくものあるいは気付かないもの、気付きにくいもの様々です。技術面／科学面で専門家ではない一般市民には理解できないことや監視が行き届かないところがあり、技術者や科学者には「世の中に対してためになること、ためになる事を考えていける人柄、それを実行できる優秀さ」が求められています。また一般市民の立場としても、技術進歩やその利用のあり方、健全な経済の発展、公正な社会の構築など社会の一員としての役割があります。

母校の校訓「人柄のよい優秀な技術者となって世の期

待にこたえよ」は、正にこのことを訴えているものと思っています。われわれ同窓生は、この教育理念のもとに5年間を送ってきました。私にはこの言葉は一生のものとして、事あるごとに、迷うたびにこの言葉を反芻して、そこから勇気を得ている、このことをお伝えしたいと思います。

卒業される皆様の「元気で安全で新鮮な」将来への健闘と、その中に同窓生同士のネットワーク『同窓会』が大いに活かされていくことを切に願っています。

事務部から

平成26年度前期分授業料の免除および徴収猶予について

経済的理由により授業料納付が困難で、学力優秀と認められる本科4・5年生および専攻科生の、平成26年度前期授業料免除および徴収猶予申請を受け付けています。申請方法は下記のとおりです。申請を希望する場合は学生課学生係へ書類を取りに来てください。

なお、本科1～3年生は原則として、「就学支援金」制度により助成が行われます。

記

申請方法 授業料免除申請書または授業料徴収猶予申請書（所定様式）を学生係へ提出する。

提出期限 平成26年3月31日(月)

※所定の様式がありますので、申請を希望する場合は、学生係へ書類を取りに来てください。

申請者には、後日学生係より、住民票、所得証明書等の必要書類提出について案内いたします。

※必要書類は、必ず学生係からの案内を確認の上、ご準備願います。

注意事項 1 平成25年10月1日以降に、懲戒処分（停学以上の処分）を受けた学生は免除の対象となりません。

2 ご不明な点がございましたら、学生課学生係（055-926-5734）にお問い合わせください。

沼津工業高等専門学校意見箱について

本校では、より良い環境の下で、良質な教育を提供することに努めており、その中で、保護者及び学生の皆様から寄せられる「声」は非常に重要なものです。

このため、本校の学校運営に関する課題・問題点を早期に把握し、その改善に資することを目的として『沼津工業高等専門学校意見箱』を設置しております。

皆様からの学校運営に関する率直なご意見、ご要望、ご指摘等ございましたら、下記メールアドレス宛にお寄せください。

メールアドレス：ikenbako@numazu-ct.ac.jp

※注意事項

- (1) ご意見等に対し、回答を要する場合は、学生所属クラス・保護者氏名または学生氏名を明記してください。匿名メールにつきましては、受付・調査等は行いますが、原則として回答はいたしません。
- (2) ご意見等をお寄せいただいた方の不利益にならないように取扱います。(ただし、虚偽の通報、他人を誹謗中傷する通報、その他不正を目的とする通報の場合を除きます)
- (3) 意見箱は週1回程度チェックします。
- (4) 受信メールの内容が高専機構に関するもので、高専機構の「公益通報の処理等に関する規則」に規定する通報に該当する場合には、当該規程により取扱います。
- (5) 公開が必要と認められる事案については、その結果を公表する場合があります。

行事予定表

平成26年

4月 入学式・入寮式
始業式・対面式・健康診断
1年生合宿研修

5月 防災訓練
後援会総会・保護者懇談会
スポーツ大会・学生総会
寮祭

6月 前期中間試験
平成27年度専攻科入学試験

7月 東海地区高専体育大会
1～4年生保護者懇談会

8月 前期末試験
一日体験入学
全国高専体育大会
平成27年度編入学試験

9月 寮生リーダー研修
2年生ミニ研究発表会

10月 4年生工場見学
中学生のための体験授業
東海北陸地区ロボコン大会
体育祭・学生総会
2年生特別研修

11月 高専祭・体験授業
文化講演会
東海北陸地区英語スピーチコンテスト
東海地区高専体育大会
授業参観・学科説明会
ロボコン全国大会
後期中間試験

12月 テクノフォーラム
3年生課外教育特別講演
4年生工学系数学統一試験
留学生交流会

平成27年

1月 3年生学習到達度試験
3年生合宿研修
平成27年度推薦選抜入試

2月 学年末試験
平成27年度学力選抜入試
5年生卒業研究発表

3月 寮生リーダー研修
卒業式・修了式

